2023年度

ＦＤ報告集

帝塚山大学
TEZUKAYAMA UNIVERSITY

令和５年度 FD 報告集の刊行によせて

本学における FD の主な組織上の来歴としては、先ず平成 14 年度に設置された FD 推進室を起点として活動がスタートし、平成 24 年度には FD 推進室、学習支援室、全学教育共通センターの３つの組織および機能を統合および改組して、全学教育開発センターが設置された。以来、当センターが主体となって大学全体の FD 活動を推進してきたが、令和３年度には FD 活動のさらなる推進のために FD 推進委員会が設置され、FD に係る各種活動は、当委員会での検討および審議を経て実行に移されることになった。また、当委員会へ提案する原案は、全学教育開発センター内に設けられた FD 推進検討チームで作成し、本報告集の作成もまた、同チームに依頼しているところである。この場をお借りして、FD 推進委員会・委員そして FD 推進検討チーム・メンバーの先生方に対し、心より感謝申し上げたい。

今年度の活動については、昨年度に決定した見直し（授業アンケートおよび公開授業・授業参観はそれぞれ各期隔年で実施）の下、当初の予定のとおり実施することができた。
１．授業改善アンケートは前期に実施し、本学独自の e-Learning システム（TALES）を活用して授業時間内に行うよう依頼した。その結果、（学部間での差に開きがみられる点に改善の余地があるものの）昨年度よりもアンケートの回収率を向上させることができた。
２．公開授業・授業参観は後期に実施し、各学部・センターから２名ずつ授業を公開していただき、またその後には同じく各学部・センターで検討会を開催した。検討会においては、参観した授業について活発な意見交換が行われた。
３．学内 FD フォーラムは、今日その利活用が求められる生成ＡＩを取り上げ、前期は「生成 AI をめぐる規範の動向」、後期は（本学教員を講師として）「生成 AI とのつき合い方と授業実践の模索」をテーマに実施し、多くの参加者を得るとともに共通理解を深めることができた。

平成 20 年に大学設置基準の改正が行われ FD が義務化されて以降、10 数年が経過し、本学においても FD 活動の積み重ねが着実になされてきている。この FD が含意する学習者中心の教育の実現や学習成果に基づく質保証は、教員一人ひとりの継続的な努力の結果、実現するものである。各自が本年度の活動において見出された課題の克服に努め、FD 本来の目的が達成されるよう、今後も当センターとしてその推進役を担っていきたい。

令和６年３月
帝塚山大学 全学教育開発センター長
鈴木 卓治

目次

FD報告集の刊行によせて

Ⅰ.授業改善アンケート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

Ⅱ.学生ヒアリング・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 29

Ⅲ.FDフォーラム・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 36

Ⅳ.公開授業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 39

Ⅴ.FD推進委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 49

Ⅵ.全学教育開発センターFD推進検討チーム・・・・・・・・・ 54

Ⅰ. 授業改善アンケート

１．2023 年度　授業改善アンケート集計結果

実施概要

今年度は前期のみの実施とし、TALES の各授業コース内でのアンケート形式で、原則全科目を対象として実施した。従来の質問項目は変更せず、質問内容を明確にするために、項目によっては補足する文言を追加した。また、新たに「授業時間」（Q15）と「授業環境」（Q16）に関する質問と自由記述欄を追加した（自由記述の回答については割愛）。さらに、受講生が余裕をもって回答できるように、実施期間を従来よりも長く設定した。

（1）目　的

学生によるアンケートを実施することで、開講されている授業に関する全体的傾向を把握するとともに、各担当教員に基礎データを提供し、授業改善に役立てる。

（2）方　法

＜対象科目＞

原則として、学部・全学教育開発センター開講の全ての科目

（リレー講義、集中講義、共同担当科目、履修登録者が３名以下の科目は除く）

＜調査方法＞

TALES 内のアンケートモジュールを活用して実施

（3）回収数・回収率

在学生数	対象科目数	対象科目の延べ履修登録者数	回収数	回収率
3,048	718	25,748	13,303	51.6%

※在学生数は 2023 年 5 月 1 日現在

（4）実施期間

2023 年 6 月 12 日（月）～6 月 24 日（月）

（5）アンケート項目

1.

No	区分	質問	1	2	3	4	5	6
Q01	進度	あなたにとってこの授業の進度は適切ですか。	遅い	やや遅い	適切	やや速い	速い	-
Q02	難易度	あなたにとってこの授業の難易度は適切ですか。	易しい	やや易しい	適切	やや難しい	難しい	-
Q03	シラバスとの整合性	授業はシラバス（授業概要、到達目標、授業計画）に沿って行われていますか。	行われている	ある程度行われている	あまり行われていない	行われていない	シラバスを見ていない	-
Q04	理解度の確認	講師は受講生の理解度を確かめながら授業を進めていますか。	進めている	ある程度進めている	あまり進めていない	進めていない	-	-
Q05	教材	授業内に配付あるいは提示される教材（教科書や黒板の文字、プロジェクターも含む）は授業内容に沿った適切なものですか。	適切である	ある程度適切である	あまり適切でない	適切でない	-	-
Q06	説明の仕方	講師の授業内容や課題に関する説明の仕方は分かりやすいですか。（聞き取りやすいなども含む）	分かりやすい	ある程度分かりやすい	少しわかりにくい	分かりにくい	-	-
Q07	授業内容	授業内容はあなたにとって関心を持てるものですか。	関心を持てる	ある程度関心を持てる	あまり関心がない	関心がない	-	-
Q08	学習支援	講師から授業外での学習支援（質問をしたら返答があるなど）を受けることはできますか。	受けられる	ある程度受けられる	あまり受けられない	受けられない	質問をしたことがない	-
Q09	講師の姿勢	講師の学生への接し方に満足していますか。	満足している	ある程度満足している	あまり満足していない	不満足である	-	-
Q10	フィードバック	課題の解答等に対する説明は行われていますか。	行われている	ある程度行われている	あまり行われていない	行われていない	フィードバックを確認していない	-
Q11	学修時間	予習・復習、準備、課題作成も含めて、授業１回あたり平均してどの程度の時間を費やしていますか。（授業時間も含める）	30 分未満	30 分～1 時間	1 時間～2 時間	2 時間～3 時間	3 時間～4 時間	4 時間以上
Q12	意欲的な学び	この授業に意欲的に取り組んでいますか。	意欲的に取り組んでいる	ある程度意欲的に取り組んでいる	あまり意欲的に取り組んでいない	意欲的に取り組んでいない	-	-
Q13	達成目標への到達度	あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか。	力がついてきている	ある程度力がついてきている	あまり力がついていない	力がついていない	到達目標を知らない	-

Q14	授業実施方法の適切さ	総合的に判断して、この授業はあなたにとって意義のあるものですか。	意義がある	ある程度意義がある	あまり意義がない	意義がない	-	-
Q15	授業時間	授業の開始・終了時刻は守られていますか。	思う	ある程度思う	あまり思わない	思わない	-	-
Q16	授業環境	授業担当者は、私語への注意など、学生が授業を受けやすいように努めていますか。	思う	ある程度思う	あまり思わない	思わない	-	-

2．

［自由記述］

この授業で良いと思う点、または改善したほうが良いと思う点について、建設的な意見をお聞かせください。※授業改善につながる内容を記入すること。特定の人物の誹謗中傷は書かないこと。

（6）授業アンケート結果概要

以下に、全学的な傾向についてまとめる。比較のために、昨年度前期の数値をカッコ内に示した。回収率は、科目の開講学部等によってばらつきがみられるものの、51.6%（昨年は 45.6%）と向上している。昨年度同様の 14 の質問項目については、「学習時間」（Q11）をのぞくすべての項目において、昨年度よりも数値が向上した。また、新規に追加した 2 項目についても高評価をえた。

1．進度　約８割が「適切」

「あなたにとってこの授業の進度は適切ですか」という質問に対して、「適切」と答えた学生は 81.5%（昨年度は 78.2%）であった。

2．難易度　６割以上が「適切」

「あなたにとってこの授業の難易度は適切ですか」という質問に対して、「適切」と答えた学生は 65.4%（昨年度は 60.1%）であった。一方、「難しい」と「やや難しい」と答えた学生の割合をあわせると 28.8%（昨年度は 33.4%）であった。

3．シラバスとの整合性　８割以上の授業が整合的

「授業はシラバス（授業概要、到達目標、授業計画）に沿って行われていますか」という質問に対して、「行われている」と「ある程度行われている」と答えた学生の割合をあわせると 83.7%（昨年度は 83.2%）であった。

4．理解度の確認　約９割が理解度確認

「講師は受講生の理解度を確かめながら授業を進めていますか」という質問に対して、「進めている」と「ある程度進めている」と答えた学生の割合をあわせると 90.8%（昨年度は 87.8%）であった。

5．教材　約 97%が適切な教材

「授業内に配布あるいは提示される教材（教科書や黒板の文字、プロジェクターも含む）は授業内容に沿った適切なものですか」という質問に対して、「適切である」と「ある程度適切である」と答えた学生の割合をあわせると 97.2%（昨年度は 96.6%）であった。

6．説明の仕方　約９割が分かりやすい説明

「講師の授業内容や課題に関する説明の仕方は分かりやすいですか。（聞き取りやすいなども含む）」という質問に対して、「分かりやすい」と「ある程度分かりやすい」と答えた学生の割合をあわせると、前期は 89.7%（昨年度は 85.5%）であった。

7．授業内容　約９割が関心あり

「授業内容はあなたにとって関心を持てるものですか」という質問に対して、「関心を持てる」と「ある程度関心を持てる」と答えた割合をあわせると、90.1%（昨年度は 87.2%）であった。

8．学習支援　支援体制は大幅に向上　約３割が「質問したことがない」

「講師から授業外での学習支援（質問をしたら返答があるなど）を受けることはできますか」という質問に対して、「受けられる」と「ある程度受けられる」と答えた学生の割合をあわせると 65.8%（昨年度は 60.3%）であった。なお、「質問をしたことがない」と答えた学生は、30.5%（昨年度は 34.3%）であった。

9．講師の姿勢　９割以上の満足度

「講師の学生への接し方に満足していますか」という質問に対して、「満足している」と「ある程度満足している」と答えた学生の割合をあわせると 93.3%（昨年度は 90.5%）であった。

10．フィードバック　約８割の授業で説明あり

「課題の解答等に対する説明は行われていますか」という質問に対して、「行われている」と「ある程度行われている」と答えた学生の割合をあわせると 89.3%（昨年度は 86.0%）であった。

11．学修時間　約 88%が２時間未満　「30 分未満」が増加

「予習・復習、準備、課題作成も含めて、授業１回あたり平均してどの程度の時間を費やしていますか。（授業時間も含める）」という質問に対して、「30 分未満」（34.9%、昨年度は 32.7%）が最も多く、次いで「30 分～１時間」（28.0%、昨年度は 26.0%）、「１時間～２時間」（25.3%、昨年度は 27.9%）の順で、２時間までの学修時間の学生が 88.2%（昨年度は 86.6）を占めている。

12．意欲的な学び　９割以上は意欲的

「この授業に意欲的に取り組んでいますか」という質問に、「意欲的に取り組んでいる」と「ある程度意欲的に取り組んでいる」と答えた学生は、92.2%（昨年度は 89.9%）であった。

13．達成目標への到達度　約８割は力がついている

「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか」という質問に、「力がついてきている」と「ある程度力がついてきている」と答えた学生をあわせると、83.1%（昨年度は 79.0%）であった。一方、「到達目標を知らない」という学生が、6.3%（昨年度は 6.6%）いた。

14．授業実施方法の適切さ　９割以上が「意義あり」

「総合的に判断して、この授業はあなたにとって意義のあるものですか」という質問に、「意義がある」「ある程度意義がある」と答えた学生をあわせると 93.5%（昨年度は 91.5%）であった。

15．授業時間　97.4%が授業時間を遵守

「授業の開始・終了時刻は守られていますか」という質問に、「思う」「ある程度思う」と答えた学生をあわせると 97.4%であった。

16．授業環境　95.4%が授業環境に配慮

「授業担当者は、私語への注意など、学生が授業を受けやすいように努めていますか」という質問に、「思う」「ある程度思う」と答えた学生をあわせると 95.4%であった（新規項目につき、昨年度のデータはなし）。

今後の課題

調査結果ついては、開講学部等によるばらつきはあるものの、全体としては、「学修時間」をのぞくすべての項目において、昨年度の数値を上回る結果となった。とりわけ、「学習支援」については 5.5 ポイントも向上し、新たに追加した「授業時間」と「授業環境」に関する項目では、いずれも肯定的な評価が 95%以上だった。

一方、以前からの課題である「学修時間」については、２時間までの学修時間の学生が微増した。その内訳をみると、「30 分未満」「30 分～１時間」と答えた学生の比率がわずかながら増加している。今回の調査では、学修を「しなかった」という選択肢を入れていないが、これまでの調査結果をふまえると、「30 分未満」のなかには、まったく授業外の学修をしない学生が含まれていることが推測される。ちなみに、「30 分未満」の割合は、2021 年度前期、2022 年度前期、2023 年度前期の順に「14.7% →32.7% →34.9%」と推移している。このような状況を重く受けとめる必要があり、各授業における課題の出し方等についての改善が求められる。

以前から課題のひとつであった回収率については、全開講科目を対象としたにも関わらず、昨年度から６ポイント向上した。これは、授業時間内で各教員が回答を促したことが功を奏したと考えられる。引き続き回収率の向上に努める必要がある。なお、学生の回答への負荷軽減という課題については、検討の結果、今年度より年一回の実施とした（今年度は前期に実施、来年度は後期に実施）。

以上のような課題以外にも、授業改善の方策を明確化するために、開講学部等や学年別の分析、各項目間の関連性についての分析が求められる。

（7）授業改善アンケート集計結果

① 概要

2023 年 6 月 12 日～24 日の間，行った授業アンケートについて，集計を行った．アンケートの実施概要を表 1 に示す．

表 1：2023 年度　前期授業アンケート実施内容

アンケート実施日	2023 年 6 月 12 日（2023/06/12　09:00）～6 月 24 日（2023/06/25　00:00）
アンケート対象	帝塚山大学在校生
アンケート実施方法	TALES のアンケートモジュールにより実施

② アンケート回答状況

アンケートの対象とした講義，及び対象とした講義の受講者（対象者数）はともに，それぞれ，718 講義，25，748 名であった．また，回答率は昨年度より約 1 割増加し 51．6％であった．詳細を表 2，表 3 に示す．

表 2：アンケート回答状況（全体）

	2023 年度前期	2022 年度前期
アンケート実施日	2023 年（6 月 12 日～24 日）	2022 年（6 月 3 日～10 日）
対象講義数	718	809
のべ対象受講者数	25,748	29,776
のべ回答者数	13,303	13,584
回答率（のべ回答数／のべ受講者数）	51.6%	45.6%

表 3：アンケート回答状況（学部別）

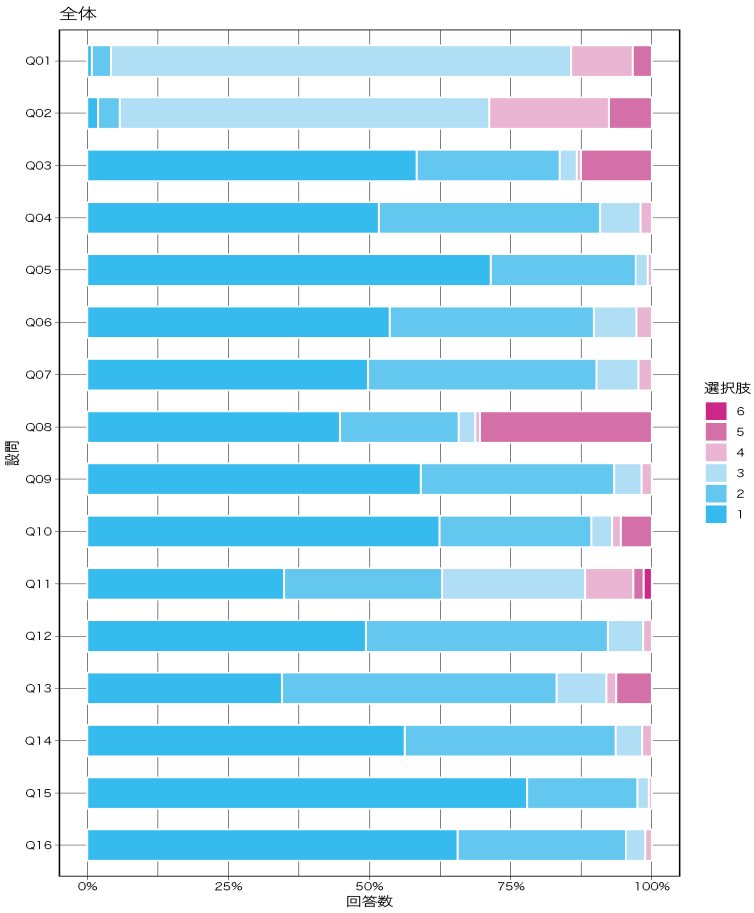
	開講学部	講義数	受講生※	回答者数	回答率	2022 年度回答率
講義開講学部	文学部	137	3754	1809	48.2%	28.9%
	経済経営学部	84	3679	1201	32.6%	44.3%
	法学部	74	1865	924	49.5%	46.0%
	心理学部	56	2478	1605	64.8%	61.1%
	現代生活学部	123	5358	3223	60.2%	54.7%
	教育学部	89	3473	1861	53.6%	48.6%
	大学共通	155	5141	2680	52.1%	41.8%
教員所属学部	文学部	71	2066	1103	53.4%	31.8%
	経済経営学部	52	2089	828	39.6%	46.6%
	法学部	60	1514	755	49.9%	47.0%
	心理学部	37	1262	858	68.0%	71.2%
	現代生活学部	43	2337	1774	75.9%	68.6%
	教育学部	44	1797	1125	62.6%	52.1%
	大学共通	70	1579	1123	71.1%	57.2%
	非常勤	341	13104	5737	43.8%	39.4%

※TALES のコースに学生ロールで登録されていたユーザー

③ アンケート集計結果

（1）全学部

アンケート回答を全学部について集計した結果を図１に示す.



No	区分	質問	1	2	3	4	5	6
Q01	進度	あなたにとってこの授業の進度は適切ですか。	遅い	やや遅い	適切	やや速い	速い	-
Q02	難易度	あなたにとってこの授業の難易度は適切ですか。	易しい	やや易しい	適切	やや難しい	難しい	-
Q03	シラバスとの整合性	授業はシラバス（授業概要、到達目標、授業計画）に沿って行われていますか。	行われている	ある程度行われている	あまり行われていない	行われていない	シラバスを見ていない	-
Q04	理解度の確認	講師は受講生の理解度を確かめながら授業を進めていますか。	進めている	ある程度進めている	あまり進めていない	進めていない	-	-
Q05	教材	授業内に配付あるいは提示される教材（教科書や黒板の文字、プロジェクターも含む）は授業内容に沿った適切なものですか。	適切である	ある程度適切である	あまり適切でない	適切でない	-	-
Q06	説明の仕方	講師の授業内容や課題に関する説明の仕方は分かりやすいですか。（聞き取りやすいなども含む）	分かりやすい	ある程度分かりやすい	少しわかりにくい	分かりにくい	-	-
Q07	授業内容	授業内容はあなたにとって関心を持てるものですか。	関心を持てる	ある程度関心を持てる	あまり関心がない	関心がない	-	-
Q08	学習支援	講師から授業外での学習支援（質問をしたら返答があるなど）を受けることはできますか。	受けられる	ある程度受けられる	あまり受けられない	受けられない	質問をしたことがない	-
Q09	講師の姿勢	講師の学生への接し方に満足していますか。	満足している	ある程度満足している	あまり満足していない	不満足である	-	-
Q10	フィードバック	課題の解答等に対する説明は行われていますか。	行われている	ある程度行われている	あまり行われていない	行われていない	フィードバックを確認していない	-
Q11	学修時間	予習・復習、準備、課題作成も含めて、授業１回あたり平均してどの程度の時間を費やしていますか。（授業時間も含める）	30分未満	30分～1時間	1時間～2時間	2時間～3時間	3時間～4時間	4時間以上
Q12	意欲的な学び	この授業に意欲的に取り組んでいますか。	意欲的に取り組んでいる	ある程度意欲的に取り組んでいる	あまり意欲的に取り組んでいない	意欲的に取り組んでいない	-	-
Q13	達成目標への到達度	あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか。	力がついてきている	ある程度力がついてきている	あまり力がついていない	力がついていない	到達目標を知らない	-
Q14	授業実施方法の適切さ	総合的に判断して、この授業はあなたにとって意義のあるものですか。	意義がある	ある程度意義がある	あまり意義がない	意義がない	-	-
Q15	授業時間	授業の開始・終了時刻は守られていますか。	思う	ある程度思う	あまり思わない	思わない		
Q16	授業環境	授業担当者は、私語への注意など、学生が授業を受けやすいように努めていますか。	思う	ある程度思う	あまり思わない	思わない		

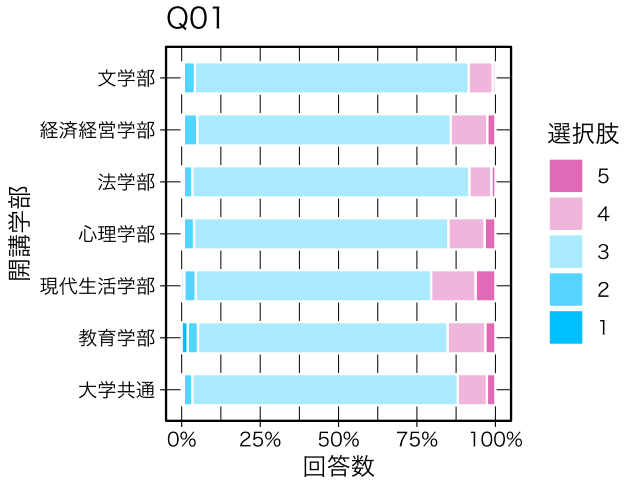
	1	2	3	4	5	6
Q01	0.8%	3.3%	81.5%	11.0%	3.4%	0.0%
Q02	1.9%	3.8%	65.4%	21.2%	7.6%	0.0%
Q03	58.4%	25.3%	3.1%	0.7%	12.6%	0.0%
Q04	51.7%	39.1%	7.2%	2.0%	0.0%	0.0%
Q05	71.5%	25.7%	2.1%	0.8%	0.0%	0.0%
Q06	53.6%	36.1%	7.6%	2.7%	0.0%	0.0%
Q07	49.7%	40.4%	7.4%	2.4%	0.0%	0.0%
Q08	44.8%	21.0%	2.9%	0.8%	30.5%	0.0%
Q09	59.0%	34.3%	4.9%	1.8%	0.0%	0.0%
Q10	62.4%	26.9%	3.7%	1.6%	5.5%	0.0%
Q11	34.9%	28.0%	25.3%	8.5%	1.9%	1.5%
Q12	49.4%	42.8%	6.3%	1.5%	0.0%	0.0%
Q13	34.5%	48.6%	8.8%	1.8%	6.3%	0.0%
Q14	56.2%	37.3%	4.7%	1.7%	0.0%	0.0%
Q15	77.9%	19.5%	2.0%	0.6%	0.0%	0.0%
Q16	65.6%	29.8%	3.5%	1.2%	0.0%	0.0%

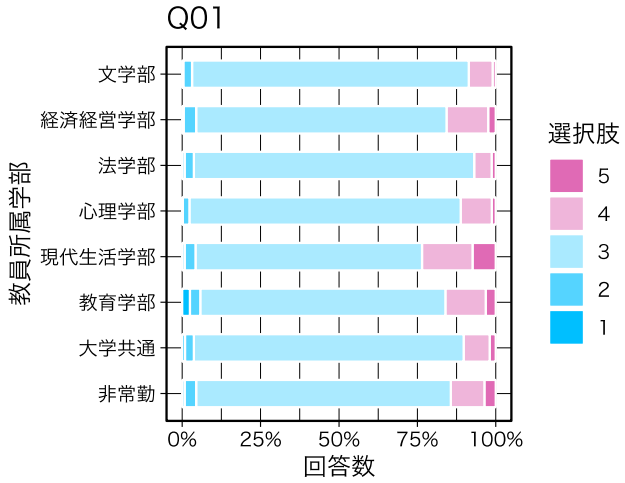
図１：全学部アンケート集計結果

（2）学部別アンケート結果

以下に，設問毎のアンケート集計結果を開講学部毎，教員所属学部毎に示す．

No	区分	質問	1	2	3	4	5	6
Q01	進度	あなたにとってこの授業の進度は適切ですか。	遅い	やや遅い	適切	やや速い	速い	-





開講学部

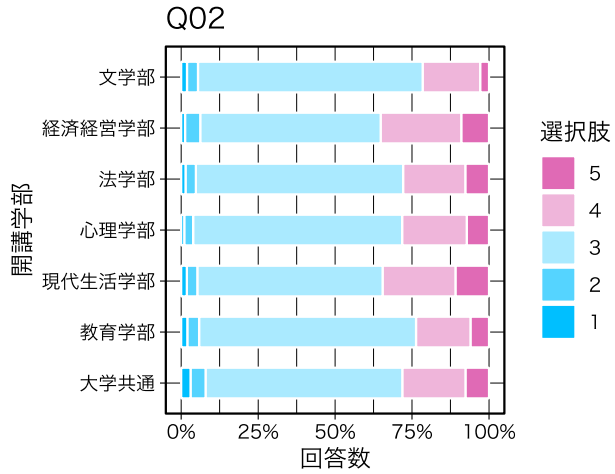
	1	2	3	4	5	6
文学部	0.6%	3.6%	87.3%	7.6%	0.9%	0.0%
経済経営学部	0.7%	4.3%	80.8%	11.7%	2.6%	0.0%
法学部	0.6%	2.7%	88.3%	7.0%	1.3%	0.0%
心理学部	0.7%	3.2%	81.1%	11.6%	3.4%	0.0%
現代生活学部	0.8%	3.7%	75.0%	14.2%	6.3%	0.0%
教育学部	1.9%	3.3%	79.6%	12.0%	3.2%	0.0%
大学共通	0.6%	2.7%	84.7%	9.3%	2.7%	0.0%
非常勤						

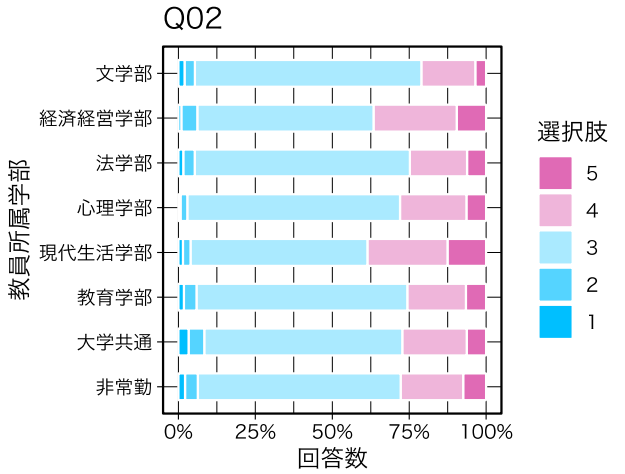
教員所属学部

1	2	3	4	5	6
0.4%	2.8%	88.2%	7.6%	1.0%	0.0%
0.5%	4.0%	79.8%	13.3%	2.4%	0.0%
0.8%	2.9%	89.4%	5.6%	1.3%	0.0%
0.1%	2.2%	86.5%	9.9%	1.3%	0.0%
0.8%	3.4%	72.3%	16.1%	7.4%	0.0%
2.5%	3.3%	78.1%	12.9%	3.2%	0.0%
0.9%	2.8%	86.0%	8.3%	2.0%	0.0%
0.8%	3.7%	81.2%	10.7%	3.6%	0.0%

図 2：Q1 のアンケート集計

No	区分	質問	1	2	3	4	5	6
Q02	難易度	あなたにとってこの授業の難易度は適切ですか。	易しい	やや易しい	適切	やや難しい	難しい	-





開講学部

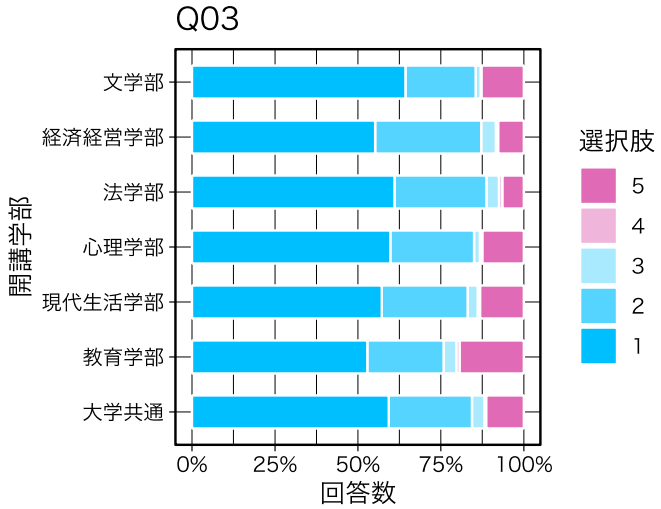
	1	2	3	4	5	6
文学部	1.9%	3.5%	73.0%	18.7%	2.9%	0.0%
経済経営学部	1.2%	4.9%	58.6%	26.2%	9.0%	0.0%
法学部	1.4%	3.4%	67.3%	20.2%	7.7%	0.0%
心理学部	1.0%	2.9%	67.9%	21.0%	7.2%	0.0%
現代生活学部	1.8%	3.4%	60.2%	23.6%	10.9%	0.0%
教育学部	2.0%	3.8%	70.5%	17.7%	6.0%	0.0%
大学共通	3.0%	4.9%	63.9%	20.5%	7.7%	0.0%
非常勤						

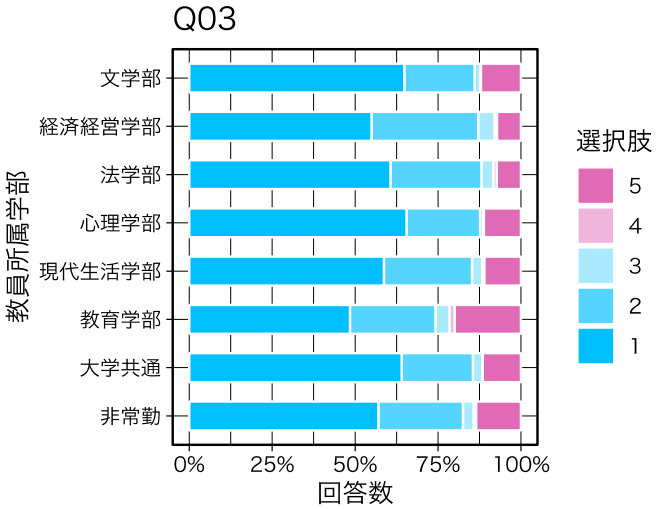
教員所属学部

1	2	3	4	5	6
2.0%	3.4%	73.6%	17.5%	3.5%	0.0%
1.0%	5.2%	57.2%	27.1%	9.5%	0.0%
1.6%	3.7%	69.9%	18.5%	6.2%	0.0%
0.7%	2.2%	69.1%	21.6%	6.4%	0.0%
1.5%	2.5%	57.4%	26.0%	12.6%	0.0%
1.8%	4.1%	68.5%	19.0%	6.6%	0.0%
3.3%	5.1%	64.3%	20.9%	6.3%	0.0%
2.2%	4.1%	66.0%	20.3%	7.5%	0.0%

図 3：Q2 のアンケート集計

No	区分	質問	1	2	3	4	5	6
Q03	シラバスとの整合性	授業はシラバス（授業概要、到達目標、授業計画）に沿って行われていますか。	行われている	ある程度行われている	あまり行われていない	行われていない	シラバスを見ていない	-





開講学部

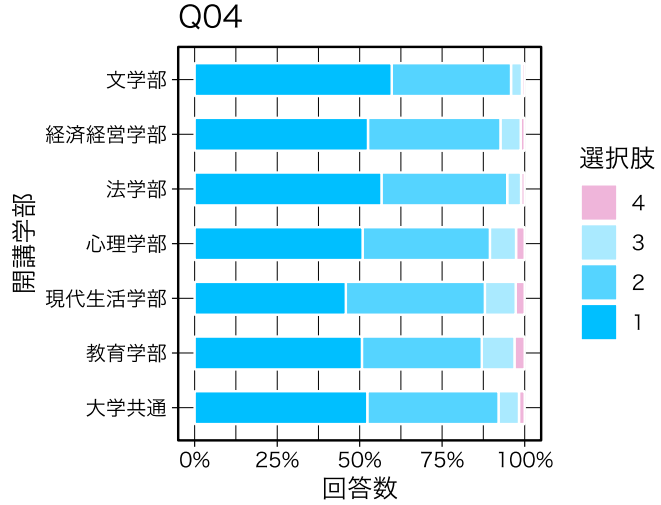
	1	2	3	4	5	6
文学部	64.3%	21.1%	1.5%	0.2%	12.8%	0.0%
経済経営学部	55.2%	32.0%	4.4%	0.7%	7.7%	0.0%
法学部	61.0%	27.7%	3.8%	1.0%	6.5%	0.0%
心理学部	59.8%	25.2%	1.7%	0.7%	12.5%	0.0%
現代生活学部	57.2%	25.8%	3.0%	0.7%	13.2%	0.0%
教育学部	52.8%	23.0%	3.8%	1.0%	19.3%	0.0%
大学共通	59.3%	25.1%	3.7%	0.6%	11.3%	0.0%
非常勤						

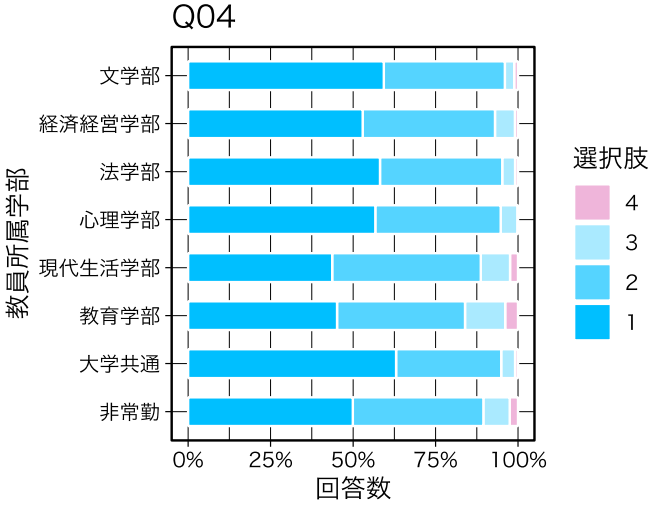
教員所属学部

1	2	3	4	5	6
64.8%	21.2%	1.7%	0.2%	12.1%	0.0%
55.0%	32.1%	5.0%	0.7%	7.2%	0.0%
60.7%	27.4%	3.6%	1.1%	7.3%	0.0%
65.5%	22.1%	0.9%	0.2%	11.2%	0.0%
58.7%	26.6%	3.0%	0.6%	11.1%	0.0%
48.4%	25.8%	4.3%	1.5%	20.0%	0.0%
64.0%	21.5%	2.8%	0.1%	11.6%	0.0%
57.0%	25.5%	3.2%	0.7%	13.6%	0.0%

図 4：Q3 のアンケート集計

No	区分	質問	1	2	3	4	5	6
Q04	理解度の確認	講師は受講生の理解度を確かめながら授業を進めていますか。	進めている	ある程度進めている	あまり進めていない	進めていない	-	-





開講学部

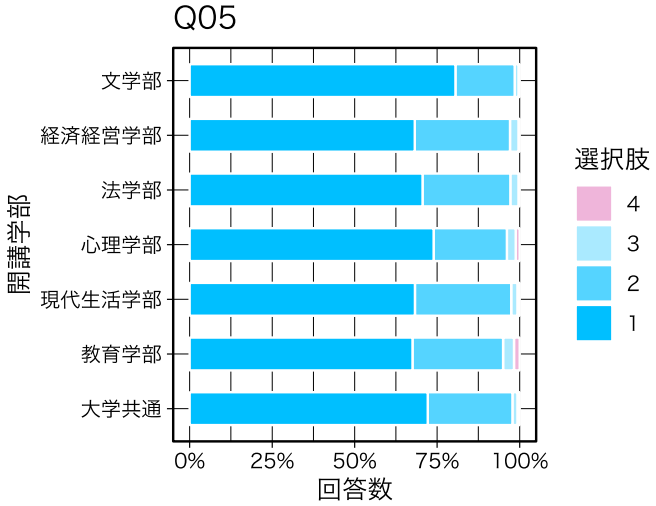
	1	2	3	4	5	6
文学部	59.7%	36.2%	3.3%	0.8%	0.0%	0.0%
経済経営学部	52.5%	40.1%	6.2%	1.2%	0.0%	0.0%
法学部	56.6%	38.1%	4.2%	1.1%	0.0%	0.0%
心理学部	50.9%	38.6%	7.9%	2.6%	0.0%	0.0%
現代生活学部	45.8%	42.1%	9.4%	2.7%	0.0%	0.0%
教育学部	50.7%	36.3%	9.9%	3.1%	0.0%	0.0%
大学共通	52.3%	39.8%	6.2%	1.7%	0.0%	0.0%
非常勤						

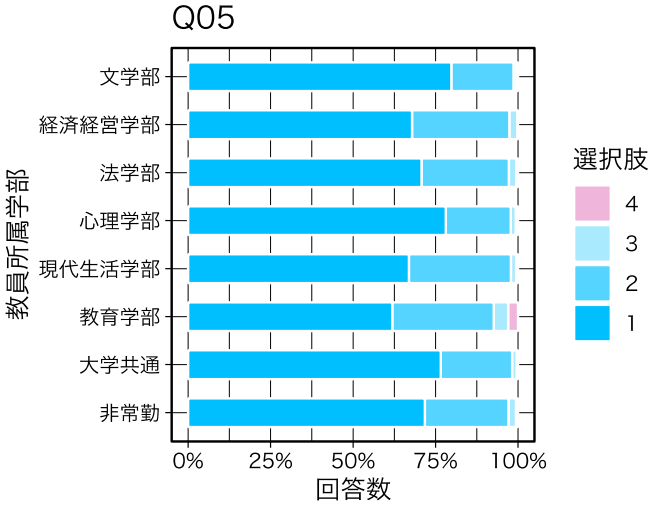
教員所属学部

1	2	3	4	5	6
59.3%	36.7%	2.8%	1.2%	0.0%	0.0%
52.9%	40.1%	6.0%	1.0%	0.0%	0.0%
58.1%	37.1%	3.8%	0.9%	0.0%	0.0%
56.8%	38.0%	5.0%	0.2%	0.0%	0.0%
43.7%	45.0%	8.9%	2.4%	0.0%	0.0%
45.2%	38.8%	12.2%	3.9%	0.0%	0.0%
63.0%	31.9%	4.2%	0.9%	0.0%	0.0%
49.9%	39.6%	8.0%	2.5%	0.0%	0.0%

図 5：Q4 のアンケート集計

No	区分	質問	1	2	3	4	5	6
Q05	教材	授業内に配付あるいは提示される教材（教科書や黒板の文字、プロジェクターも含む）は授業内容に沿った適切なものですか。	適切である	ある程度適切である	あまり適切でない	適切でない	-	-





開講学部

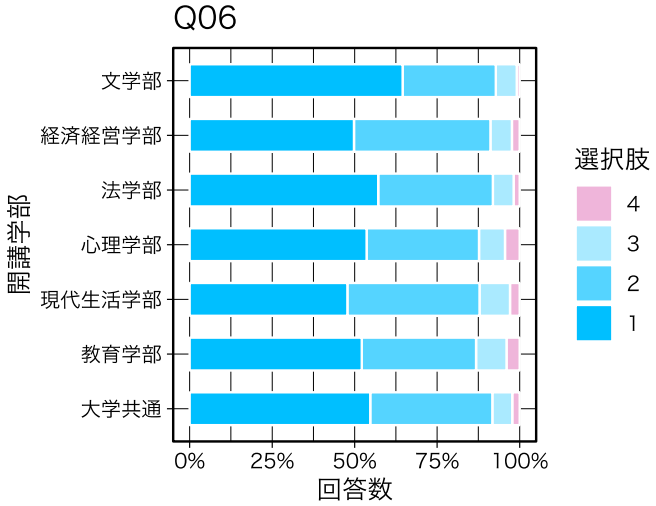
	1	2	3	4	5	6
文学部	80.5%	18.0%	1.2%	0.3%	0.0%	0.0%
経済経営学部	68.2%	28.9%	2.6%	0.3%	0.0%	0.0%
法学部	70.6%	26.6%	2.5%	0.3%	0.0%	0.0%
心理学部	74.0%	22.2%	2.7%	1.2%	0.0%	0.0%
現代生活学部	68.3%	29.1%	1.9%	0.7%	0.0%	0.0%
教育学部	67.5%	27.5%	3.3%	1.7%	0.0%	0.0%
大学共通	72.1%	25.7%	1.5%	0.7%	0.0%	0.0%
非常勤						

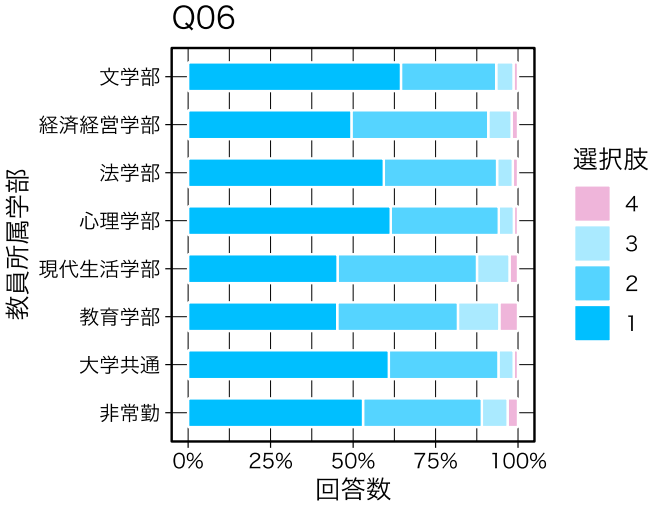
教員所属学部

1	2	3	4	5	6
79.8%	18.9%	0.8%	0.5%	0.0%	0.0%
67.9%	29.5%	2.4%	0.2%	0.0%	0.0%
70.7%	26.5%	2.3%	0.5%	0.0%	0.0%
78.1%	19.7%	1.5%	0.7%	0.0%	0.0%
66.9%	30.9%	1.6%	0.6%	0.0%	0.0%
61.9%	30.8%	4.4%	3.0%	0.0%	0.0%
76.6%	21.6%	1.3%	0.4%	0.0%	0.0%
71.7%	25.4%	2.3%	0.6%	0.0%	0.0%

図 6：Q5 のアンケート集計

No	区分	質問	1	2	3	4	5	6
Q06	説明の仕方	講師の授業内容や課題に関する説明の仕方は分かりやすいですか。（聞き取りやすいなども含む）	分かりやすい	ある程度分かりやすい	少しわかりにくい	分かりにくい	-	-





開講学部

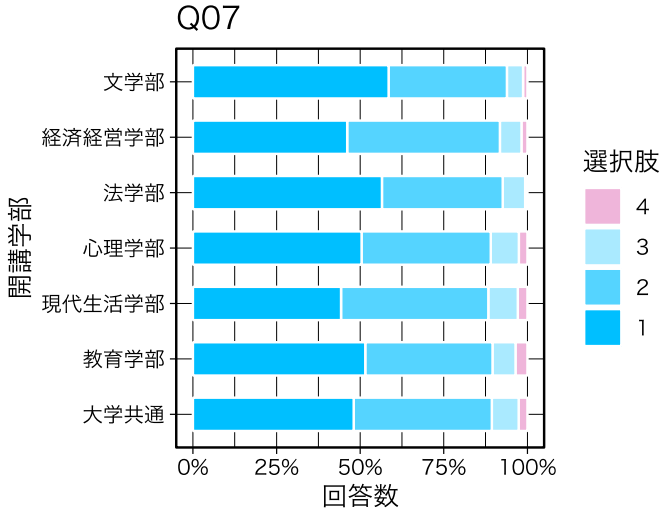
	1	2	3	4	5	6
文学部	64.5%	28.2%	6.4%	0.9%	0.0%	0.0%
経済経営学部	49.8%	41.4%	6.5%	2.3%	0.0%	0.0%
法学部	57.1%	34.7%	6.3%	1.8%	0.0%	0.0%
心理学部	53.6%	34.0%	7.9%	4.4%	0.0%	0.0%
現代生活学部	47.8%	40.1%	9.2%	2.9%	0.0%	0.0%
教育学部	52.2%	34.6%	9.2%	4.0%	0.0%	0.0%
大学共通	54.7%	37.0%	6.0%	2.2%	0.0%	0.0%
非常勤						

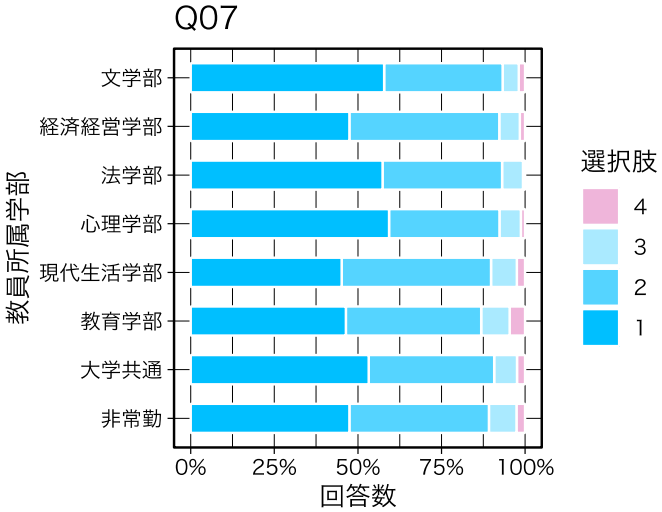
教員所属学部

1	2	3	4	5	6
64.5%	28.9%	5.3%	1.4%	0.0%	0.0%
49.5%	41.4%	7.1%	1.9%	0.0%	0.0%
59.3%	34.3%	4.8%	1.6%	0.0%	0.0%
61.4%	32.8%	4.5%	1.3%	0.0%	0.0%
45.3%	42.2%	9.9%	2.6%	0.0%	0.0%
45.2%	36.6%	12.5%	5.7%	0.0%	0.0%
60.8%	33.2%	4.6%	1.3%	0.0%	0.0%
53.0%	36.0%	7.8%	3.2%	0.0%	0.0%

図 7：Q6 のアンケート集計

No	区分	質問	1	2	3	4	5	6
Q07	授業内容	授業内容はあなたにとって関心を持てるものですか。	関心を持てる	ある程度関心を持てる	あまり関心がない	関心がない	-	-





開講学部

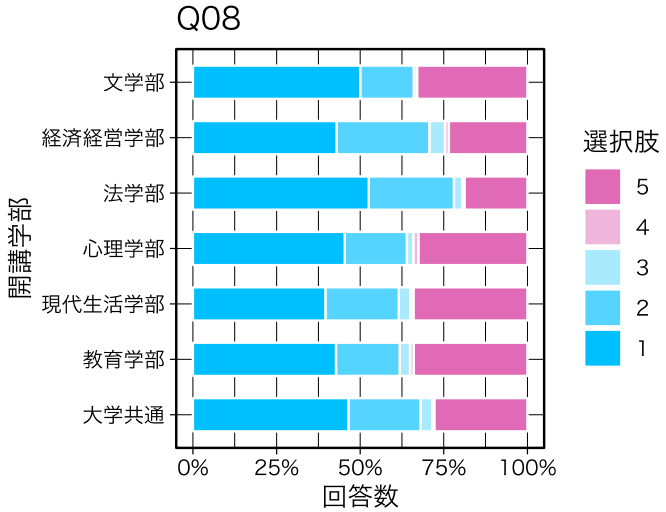
	1	2	3	4	5	6
文学部	58.5%	35.4%	4.9%	1.3%	0.0%	0.0%
経済経営学部	46.1%	45.6%	6.5%	1.7%	0.0%	0.0%
法学部	56.5%	36.1%	6.7%	0.6%	0.0%	0.0%
心理学部	50.4%	38.6%	8.4%	2.6%	0.0%	0.0%
現代生活学部	44.3%	44.1%	8.8%	2.9%	0.0%	0.0%
教育学部	51.5%	38.0%	6.9%	3.5%	0.0%	0.0%
大学共通	48.0%	41.3%	8.0%	2.6%	0.0%	0.0%
非常勤						

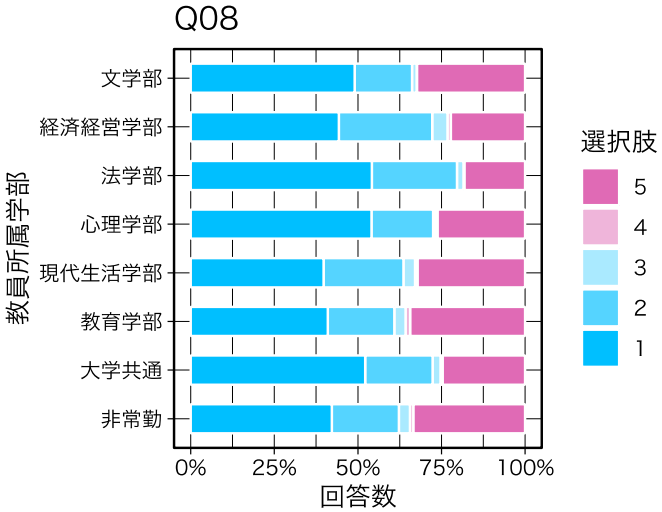
教員所属学部

1	2	3	4	5	6
57.8%	35.4%	4.8%	1.9%	0.0%	0.0%
47.5%	44.8%	6.2%	1.6%	0.0%	0.0%
57.4%	35.8%	6.2%	0.7%	0.0%	0.0%
59.3%	33.0%	6.4%	1.3%	0.0%	0.0%
45.2%	44.6%	7.7%	2.5%	0.0%	0.0%
46.4%	40.4%	8.5%	4.6%	0.0%	0.0%
53.2%	37.5%	6.9%	2.4%	0.0%	0.0%
47.5%	41.7%	8.2%	2.6%	0.0%	0.0%

図 8：Q7 のアンケート集計

No	区分	質問	1	2	3	4	5	6
Q08	学習支援	講師から授業外での学習支援（質問をしたら返答があるなど）を受けることはできますか。	受けられる	ある程度受けられる	あまり受けられない	受けられない	質問をしたことがない	-





開講学部

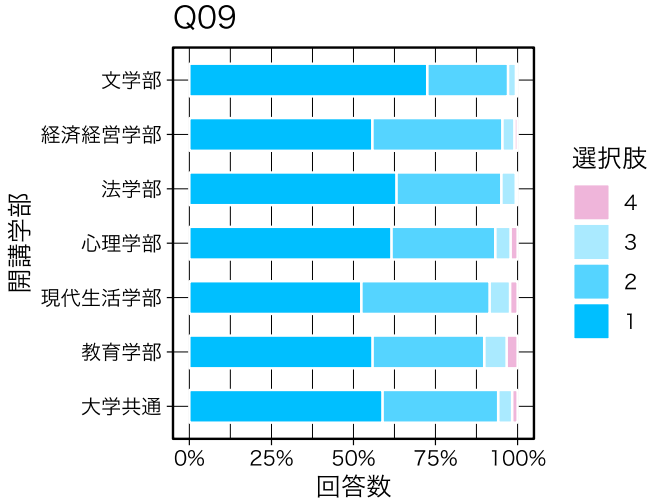
	1	2	3	4	5	6
文学部	50.0%	16.0%	0.8%	0.2%	33.0%	0.0%
経済経営学部	43.0%	27.7%	4.7%	1.2%	23.5%	0.0%
法学部	52.6%	25.4%	2.5%	0.6%	18.8%	0.0%
心理学部	45.4%	18.6%	1.9%	1.4%	32.6%	0.0%
現代生活学部	39.6%	21.9%	3.5%	0.9%	34.1%	0.0%
教育学部	42.8%	19.0%	3.1%	1.1%	34.0%	0.0%
大学共通	46.5%	21.5%	3.5%	0.6%	27.8%	0.0%
非常勤						

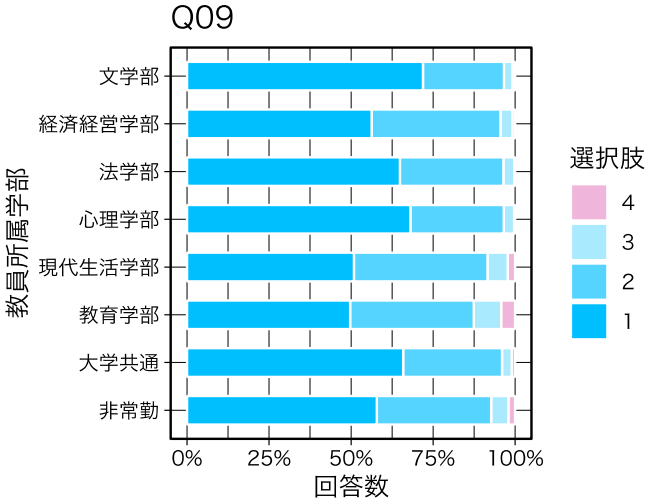
教員所属学部

1	2	3	4	5	6
49.0%	17.1%	1.4%	0.1%	32.4%	0.0%
44.3%	27.9%	4.6%	1.0%	22.2%	0.0%
54.2%	25.4%	2.0%	0.3%	18.1%	0.0%
54.1%	18.4%	0.6%	0.7%	26.2%	0.0%
39.7%	23.9%	3.4%	0.7%	32.2%	0.0%
41.0%	19.9%	3.4%	1.3%	34.4%	0.0%
52.2%	20.1%	2.4%	0.6%	24.7%	0.0%
42.2%	20.0%	3.3%	1.0%	33.4%	0.0%

図 9：Q8 のアンケート集計

No	区分	質問	1	2	3	4	5	6
Q09	講師の姿勢	講師の学生への接し方に満足していますか。	満足している	ある程度満足している	あまり満足していない	不満足である	-	-





開講学部

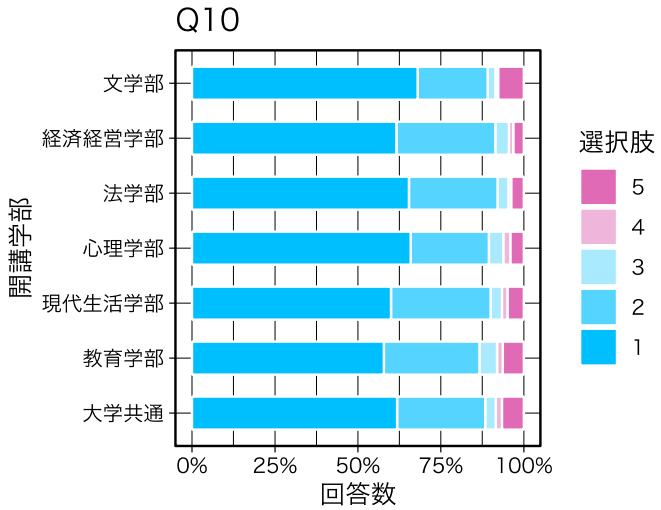
	1	2	3	4	5	6
文学部	72.5%	24.6%	2.4%	0.5%	0.0%	0.0%
経済経営学部	55.7%	39.6%	3.7%	1.0%	0.0%	0.0%
法学部	63.1%	31.9%	4.4%	0.5%	0.0%	0.0%
心理学部	61.6%	31.7%	4.7%	2.1%	0.0%	0.0%
現代生活学部	52.4%	39.1%	6.3%	2.3%	0.0%	0.0%
教育学部	55.8%	34.1%	6.8%	3.3%	0.0%	0.0%
大学共通	58.8%	35.3%	4.3%	1.7%	0.0%	0.0%
非常勤						

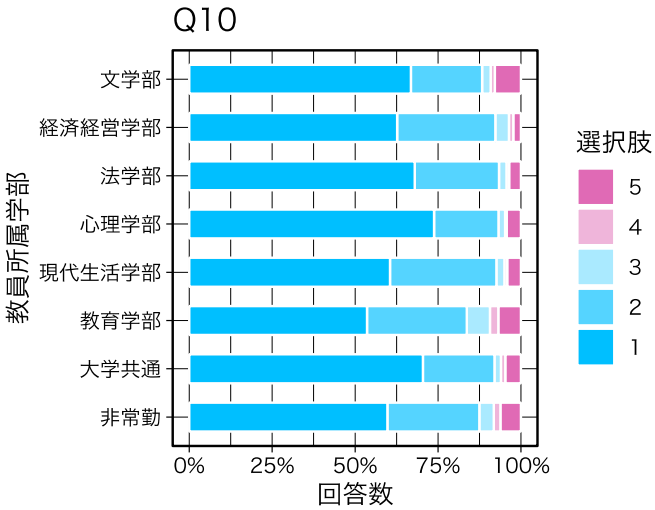
教員所属学部

1	2	3	4	5	6
71.9%	24.7%	2.6%	0.8%	0.0%	0.0%
56.3%	39.3%	3.6%	0.8%	0.0%	0.0%
64.9%	31.5%	3.3%	0.3%	0.0%	0.0%
68.1%	28.4%	3.1%	0.3%	0.0%	0.0%
50.9%	40.7%	6.1%	2.3%	0.0%	0.0%
49.7%	37.7%	8.4%	4.3%	0.0%	0.0%
65.9%	30.1%	2.9%	1.1%	0.0%	0.0%
57.8%	34.9%	5.2%	2.1%	0.0%	0.0%

図 10：Q9 のアンケート集計

No	区分	質問	1	2	3	4	5	6
Q10	フィードバック	課題の解答等に対する説明は行われていますか。	行われている	ある程度行われている	あまり行われていない	行われていない	フィードバックを確認していない	-





開講学部

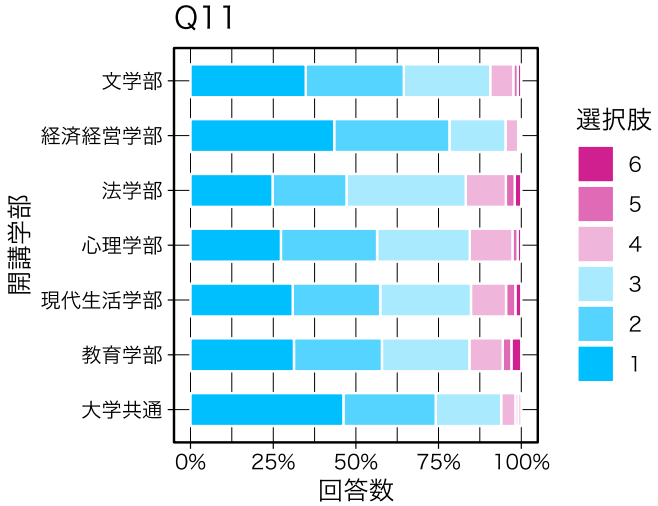
	1	2	3	4	5	6
文学部	68.0%	21.1%	2.4%	0.8%	7.7%	0.0%
経済経営学部	61.6%	29.8%	4.1%	1.3%	3.2%	0.0%
法学部	65.4%	26.7%	3.2%	0.9%	3.8%	0.0%
心理学部	65.9%	23.6%	4.4%	2.1%	4.0%	0.0%
現代生活学部	60.0%	30.0%	3.4%	1.6%	4.9%	0.0%
教育学部	57.8%	28.8%	5.3%	1.7%	6.3%	0.0%
大学共通	61.8%	26.6%	3.2%	1.9%	6.6%	0.0%
非常勤						

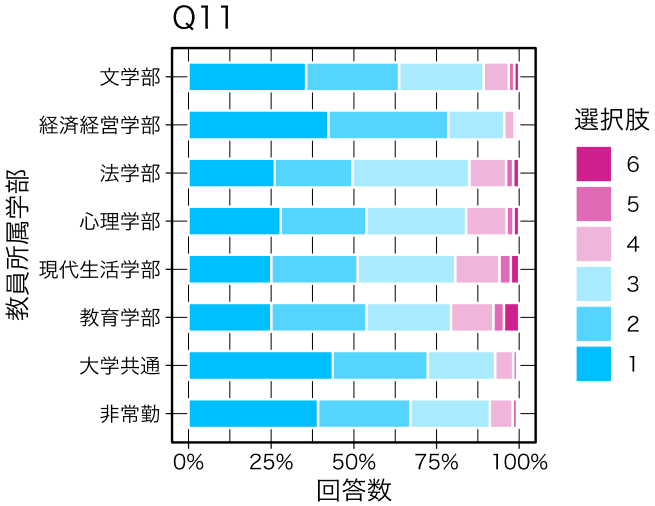
教員所属学部

1	2	3	4	5	6
66.8%	21.5%	2.5%	1.3%	7.9%	0.0%
62.7%	29.6%	4.1%	1.3%	2.3%	0.0%
67.9%	25.4%	2.3%	0.8%	3.6%	0.0%
73.8%	19.5%	2.0%	0.5%	4.3%	0.0%
60.5%	32.1%	2.4%	0.8%	4.2%	0.0%
53.6%	30.0%	7.0%	2.5%	6.8%	0.0%
70.4%	21.5%	2.0%	1.3%	4.7%	0.0%
59.8%	27.7%	4.3%	2.0%	6.2%	0.0%

図 11：Q10 のアンケート集計

No	区分	質問	1	2	3	4	5	6
Q11	学修時間	予習・復習、準備、課題作成も含めて、授業１回あたり平均してどの程度の時間を費やしていますか。（授業時間も含める）	30分未満	30分～1時間	1時間～2時間	2時間～3時間	3時間～4時間	4時間以上





開講学部

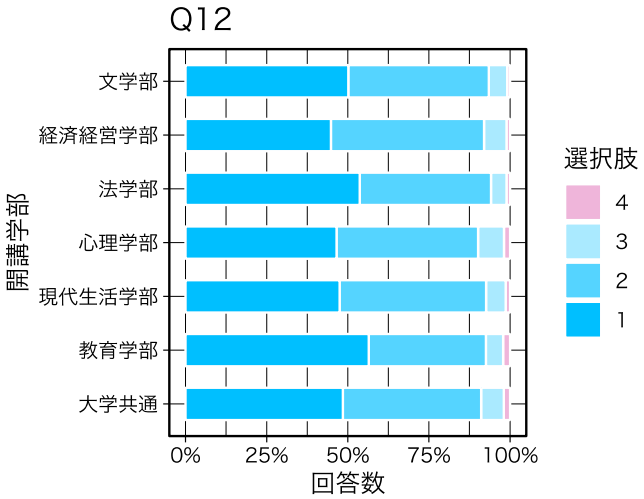
	1	2	3	4	5	6
文学部	34.8%	29.7%	26.1%	7.0%	1.3%	1.1%
経済経営学部	43.5%	34.8%	17.0%	3.8%	0.6%	0.3%
法学部	24.8%	22.4%	36.0%	12.1%	2.7%	1.9%
心理学部	27.4%	29.0%	28.0%	12.9%	1.6%	1.1%
現代生活学部	30.9%	26.4%	27.5%	10.6%	2.9%	1.7%
教育学部	31.3%	26.6%	26.4%	10.1%	2.6%	3.0%
大学共通	46.2%	27.9%	19.8%	4.3%	0.9%	0.9%
非常勤						

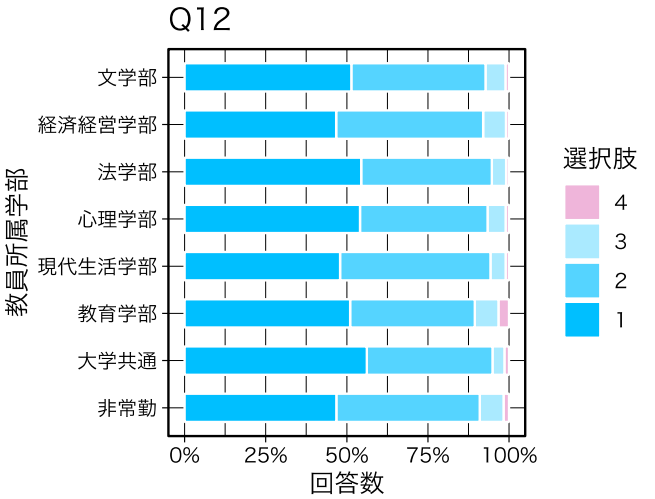
教員所属学部

1	2	3	4	5	6
35.5%	28.1%	25.6%	7.6%	1.6%	1.5%
42.3%	36.2%	16.9%	3.1%	0.8%	0.6%
26.1%	23.4%	35.4%	11.1%	2.1%	1.9%
27.9%	25.9%	30.2%	12.2%	2.1%	1.7%
25.0%	26.2%	29.5%	13.4%	3.4%	2.5%
25.0%	28.9%	25.5%	12.8%	3.2%	4.6%
43.6%	28.7%	20.4%	5.4%	1.2%	0.6%
39.1%	27.9%	24.0%	6.9%	1.3%	0.7%

図 12：Q11 のアンケート集計

No	区分	質問	1	2	3	4	5	6
Q12	意欲的な学び	この授業に意欲的に取り組んでいますか。	意欲的に取り組んでいる	ある程度意欲的に取り組んでいる	あまり意欲的に取り組んでいない	意欲的に取り組んでいない	-	-





開講学部

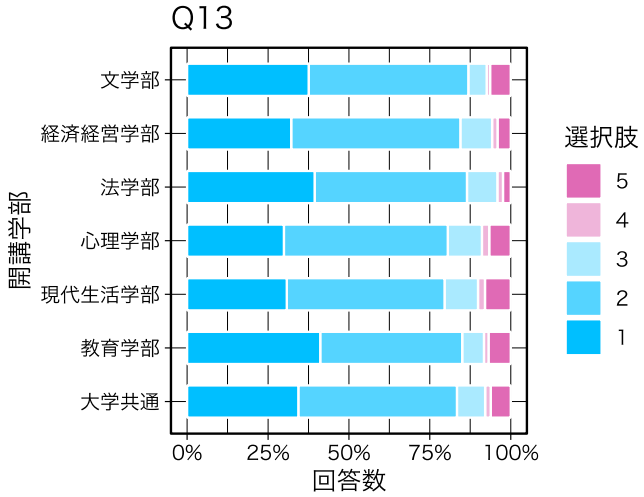
	1	2	3	4	5	6
文学部	50.1%	43.3%	5.6%	0.9%	0.0%	0.0%
経済経営学部	44.8%	47.2%	6.9%	1.1%	0.0%	0.0%
法学部	53.7%	40.5%	4.8%	1.1%	0.0%	0.0%
心理学部	46.5%	43.6%	8.0%	1.9%	0.0%	0.0%
現代生活学部	47.5%	45.2%	6.0%	1.4%	0.0%	0.0%
教育学部	56.5%	36.1%	5.3%	2.2%	0.0%	0.0%
大学共通	48.5%	42.6%	7.0%	1.9%	0.0%	0.0%
非常勤						

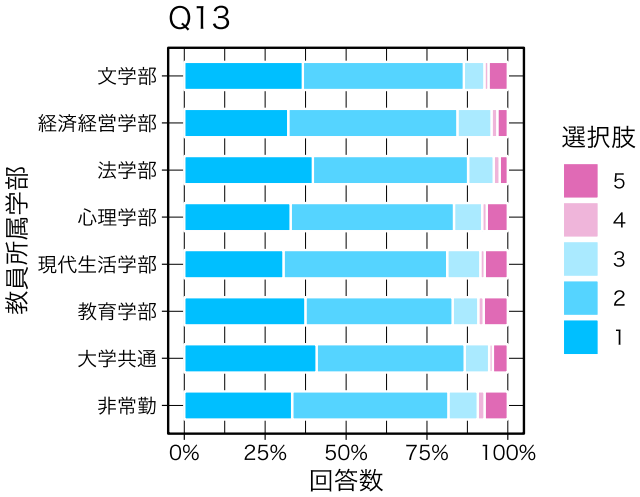
教員所属学部

1	2	3	4	5	6
51.4%	41.3%	6.2%	1.1%	0.0%	0.0%
46.7%	45.3%	7.0%	1.0%	0.0%	0.0%
54.4%	40.3%	4.4%	0.9%	0.0%	0.0%
54.1%	39.3%	5.6%	1.0%	0.0%	0.0%
47.9%	46.3%	4.7%	1.1%	0.0%	0.0%
51.0%	38.4%	7.3%	3.3%	0.0%	0.0%
56.2%	38.7%	3.7%	1.4%	0.0%	0.0%
46.8%	44.2%	7.4%	1.7%	0.0%	0.0%

図 13：Q12 のアンケート集計

No	区分	質問	1	2	3	4	5	6
Q13	達成目標への到達度	あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか。	力がついてきている	ある程度力がついてきている	あまり力がついていない	力がついていない	到達目標を知らない	-





開講学部

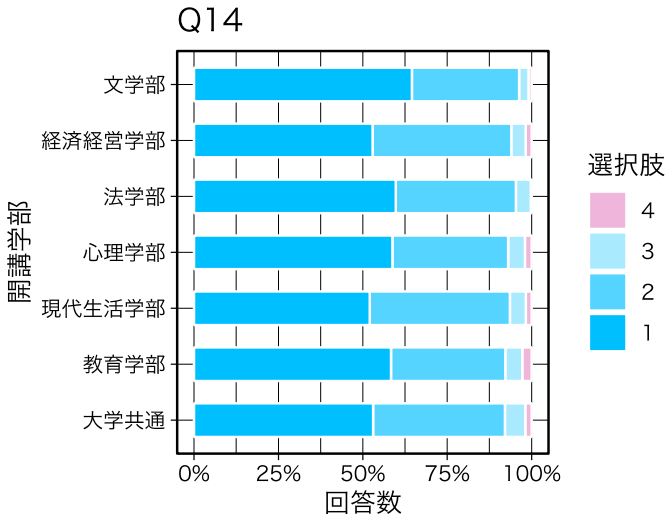
	1	2	3	4	5	6
文学部	37.6%	49.3%	5.7%	1.1%	6.4%	0.0%
経済経営学部	32.1%	52.3%	9.8%	1.7%	4.1%	0.0%
法学部	39.4%	47.1%	9.4%	1.7%	2.4%	0.0%
心理学部	29.9%	50.7%	10.5%	2.2%	6.7%	0.0%
現代生活学部	30.8%	48.7%	10.3%	2.1%	8.0%	0.0%
教育学部	41.1%	43.9%	6.7%	1.4%	6.9%	0.0%
大学共通	34.4%	49.0%	8.7%	1.8%	6.2%	0.0%
非常勤						

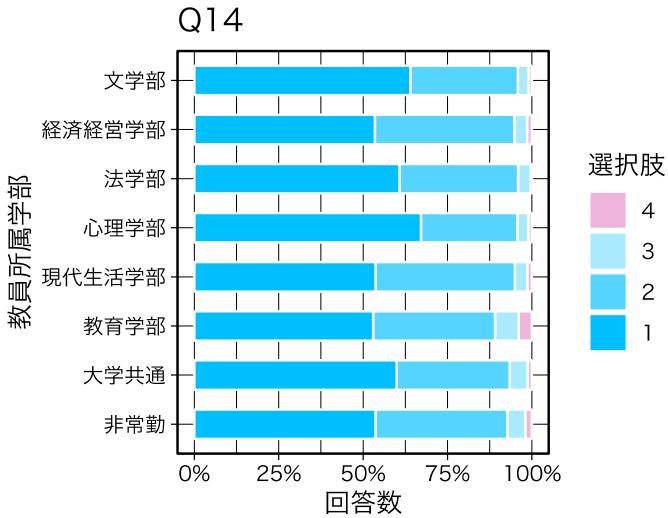
教員所属学部

1	2	3	4	5	6
36.7%	49.7%	6.4%	1.3%	6.0%	0.0%
32.1%	52.3%	10.5%	1.8%	3.3%	0.0%
39.7%	47.9%	7.9%	1.9%	2.5%	0.0%
32.9%	50.5%	8.7%	1.4%	6.5%	0.0%
30.7%	50.6%	10.3%	1.4%	7.2%	0.0%
37.4%	45.5%	7.9%	1.7%	7.5%	0.0%
40.9%	45.8%	7.6%	1.2%	4.6%	0.0%
33.3%	48.3%	9.1%	2.1%	7.2%	0.0%

図 14：Q13 のアンケート集計

No	区分	質問	1	2	3	4	5	6
Q14	授業実施方法の適切さ	総合的に判断して、この授業はあなたにとって意義のあるものですか。	意義がある	ある程度意義がある	あまり意義がない	意義がない	-	-





開講学部

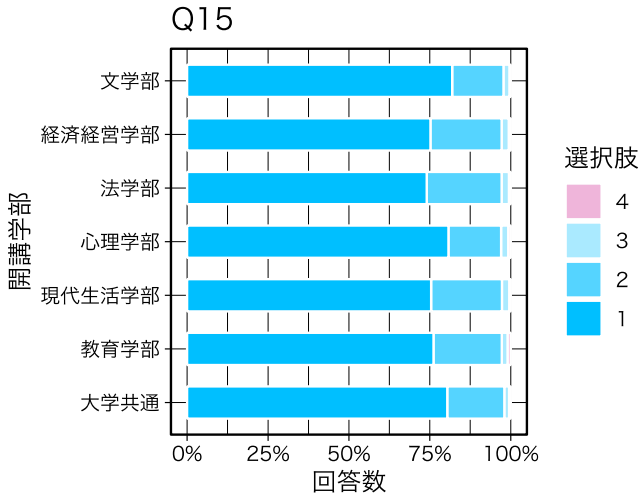
	1	2	3	4	5	6
文学部	64.5%	31.7%	2.8%	0.9%	0.0%	0.0%
経済経営学部	52.9%	41.1%	4.2%	1.7%	0.0%	0.0%
法学部	59.7%	35.6%	4.4%	0.2%	0.0%	0.0%
心理学部	58.8%	34.3%	5.0%	2.0%	0.0%	0.0%
現代生活学部	52.1%	41.5%	4.7%	1.7%	0.0%	0.0%
教育学部	58.4%	33.9%	5.1%	2.7%	0.0%	0.0%
大学共通	53.0%	39.1%	6.0%	1.9%	0.0%	0.0%
非常勤						

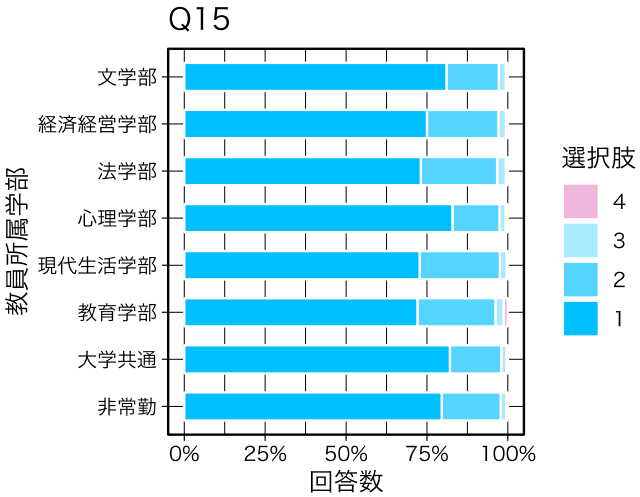
開講学部

1	2	3	4	5	6
64.0%	31.9%	3.2%	1.0%	0.0%	0.0%
53.5%	41.3%	3.7%	1.4%	0.0%	0.0%
60.8%	35.1%	3.7%	0.4%	0.0%	0.0%
67.1%	28.6%	3.3%	1.0%	0.0%	0.0%
53.7%	41.2%	3.7%	1.4%	0.0%	0.0%
53.0%	36.1%	7.0%	3.9%	0.0%	0.0%
59.9%	33.5%	5.3%	1.2%	0.0%	0.0%
53.6%	39.1%	5.3%	1.9%	0.0%	0.0%

図 15：Q14 のアンケート集計

No	区分	質問	1	2	3	4	5	6
Q15	授業時間	授業の開始・終了時刻は守られていますか。	思う	ある程度思う	あまり思わない	思わない		





開講学部

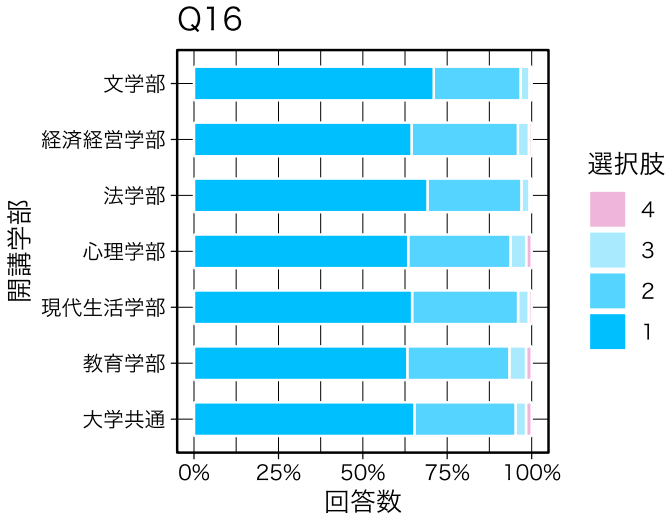
	1	2	3	4	5	6
文学部	81.9%	15.9%	1.8%	0.4%	0.0%	0.0%
経済経営学部	75.2%	22.0%	2.2%	0.6%	0.0%	0.0%
法学部	74.0%	23.2%	2.3%	0.5%	0.0%	0.0%
心理学部	80.7%	16.3%	2.2%	0.7%	0.0%	0.0%
現代生活学部	75.4%	21.9%	2.3%	0.4%	0.0%	0.0%
教育学部	76.1%	21.1%	1.8%	1.0%	0.0%	0.0%
大学共通	80.4%	17.6%	1.5%	0.5%	0.0%	0.0%
非常勤						

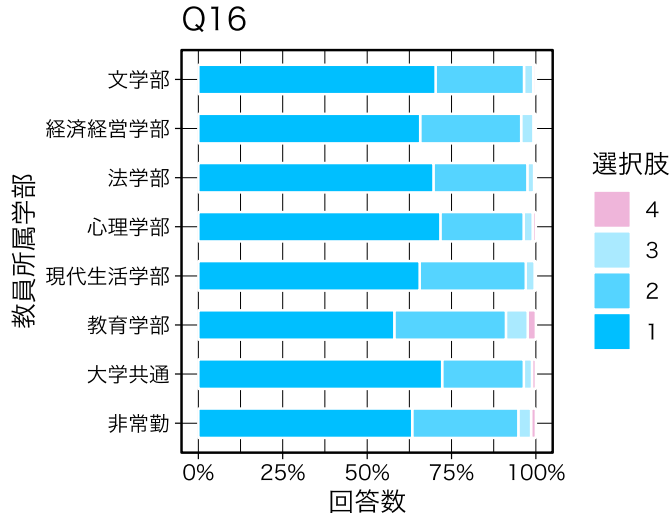
教員所属学部

1	2	3	4	5	6
81.1%	16.1%	2.2%	0.6%	0.0%	0.0%
75.0%	22.1%	2.3%	0.6%	0.0%	0.0%
73.1%	23.6%	2.6%	0.7%	0.0%	0.0%
82.9%	14.6%	1.9%	0.7%	0.0%	0.0%
72.8%	24.7%	2.1%	0.4%	0.0%	0.0%
72.1%	24.1%	2.5%	1.3%	0.0%	0.0%
82.1%	15.9%	1.6%	0.4%	0.0%	0.0%
79.6%	18.2%	1.8%	0.5%	0.0%	0.0%

図 16：Q15 のアンケート集計

No	区分	質問	1	2	3	4	5	6
Q16	授業環境	授業担当者は、私語への注意など、学生が授業を受けやすいように努めていますか。	思う	ある程度思う	あまり思わない	思わない		





開講学部

	1	2	3	4	5	6
文学部	71.0%	25.8%	2.6%	0.7%	0.0%	0.0%
経済経営学部	64.4%	31.5%	3.2%	0.8%	0.0%	0.0%
法学部	69.2%	27.8%	2.4%	0.6%	0.0%	0.0%
心理学部	63.4%	30.3%	4.7%	1.6%	0.0%	0.0%
現代生活学部	64.6%	31.4%	3.1%	0.9%	0.0%	0.0%
教育学部	63.2%	30.2%	4.9%	1.7%	0.0%	0.0%
大学共通	65.3%	30.0%	3.1%	1.6%	0.0%	0.0%
非常勤						

開講学部

1	2	3	4	5	6
70.3%	26.2%	2.7%	0.8%	0.0%	0.0%
65.7%	30.0%	3.6%	0.7%	0.0%	0.0%
69.7%	27.8%	2.0%	0.5%	0.0%	0.0%
71.7%	24.7%	2.7%	0.9%	0.0%	0.0%
65.6%	31.5%	2.6%	0.4%	0.0%	0.0%
58.0%	33.1%	6.5%	2.4%	0.0%	0.0%
72.2%	24.2%	2.4%	1.2%	0.0%	0.0%
63.3%	31.5%	3.7%	1.4%	0.0%	0.0%

図 17：Q16 のアンケート集計

2．授業改善アンケートの結果のフィードバックについて

(1) 担当教員へのフィードバック

アンケート結果は、TALES 上で自動集計されたものを各自確認いただくこととし、以下の依頼をした。なお、意見聴取シートの提出率は、75%（専任教員 96%）あった。

- 集計結果および学生からの意見に対して、できるだけ講義中に説明等を行うとともに、今後の授業改善の一助とすること。
- 意見聴取シート（「結果の予想と実際の比較」「結果を踏まえての授業改善方法」「先生方が授業で工夫されている点」「授業運営で困っている点」）を提出すること。

⇒「結果を踏まえての授業改善方法」は、原文のまま学内サーバーにて教職員及び学生に公開する。

⇒「先生方が授業で工夫されている点」については、全学教育開発センターで検討の上、「ティーチングティップス集」として『FD 報告集』にて全教員に公開する。

(2) 学長、副学長、各学部長、全学教育開発センター長へのフィードバック

①アンケート対象科目全体の集計結果、②アンケート対象科目の開講所属別集計結果、③専任教員担当科目についての教員所属別集計結果を、学長、副学長、各学部長および全学教育開発センター長に通知した。（①・②・③を、専任教職員が参照できる学内サーバーに収納した。）

(3) 学生へのフィードバック

担当教員が提出した意見聴取シートのうち、「結果を踏まえての授業改善方法」の一覧を、学生が参照できる学内サーバーに収納した。

(4) FD 推進委員会での報告・検討

FD 推進委員会にて以下の報告・検討をおこなった。

- 授業改善アンケートの実施期間、方法等についての検討
- アンケート質問項目、意見聴取シート記載項目変更の報告
- アンケート実施状況、意見聴取シート提出状況の報告
- 「ティーチング・ティップス集」の検討

（1）2023 年度の授業改善アンケートの結果を受けて先生方から提出いただいた意見聴取シートの「授業において工夫している点」の中から、多くの先生方に参考になると思われるものをピックアップした。

（2）その上で、これまでの内容を一部改訂し、今回新たにピックアップされたものに＊と表示し加えている。

（3）同類の工夫が複数の項目に入っている場合があるが、いずれにも該当するとの判断から、敢えてそのようにしている。

1．授業で気をつけていること

＊個人の身近な事例と理論との関係性について、学生たちと一緒に議論を深めていく。

＊私語の注意をこまめに行うように気を付けている。

・1 年生は大学に慣れておらず、顔をあわせる機会も少ないことから、学生との距離については十分に配慮する。

・授業を聞く前と後とでは知識量や興味が変わるようにしている。

・常に最新の情報を収集するとともに、授業の構造が具体的に理解できるように授業構成の見える化を心がけている。

・理論と実践の融合を図ることを大事にしている。

・教科内容をできるだけわかりやすく説明すると同時に教科の意義を考察できるような問いかけをしている。

・何のための実験操作か？その操作でどんなことが起こるのか？などといったことを、限られた時間の中ではあるが、学生一人ひとりがイメージできるような授業を実践する。

・作業の繰り返しを行い何度も体験ができるように工夫する。

・出来るだけ多くの学生に発表の機会を与えようとする。

・クラスメイトがどのような考えを持ち課題を進めているのか？ということをクラス全体で共有（可視化）しながら、時にそれらをピアで（仲間同士で）評価し、課題（授業）全体を進めていくよう工夫する。すなわち、縦（教員）だけでなく、横（仲間）からの刺激を受けられるように授業構成する。

・演習中にわからない部分を友人に尋ねて解決するケースはお互いの学びあいのために良いことではあるが、間違いを教えあうこともある。困っている様子の学生に対して、演習時の巡回中により一層声がけを行い、学生からの説明を傾聴しつつ解決へのアドバイスに努める。

・可能な限り学生の声を聞いて講義に反映させる。

・学生が、課題へどのように取り組んでいるのかを確認しつつ、次の授業の構想を立てるようにする。

・毎回の授業課題で書かせている「授業内容の要約」から、授業の理解度を確認し、進捗スピードなど注意する。

2．講義方法

・対面授業が久々に再開されたことから、これまでの対面授業よりもややゆっくり進めている。
・実習のスピードが早く感じる学生さんもいるようなので、操作を見ながら作業するのではなく、一旦操作を見せた後で一緒に操作していく、という流れにすることで、全体を把握しながら操作しやすくなる。
・対面授業だけでは難しいとのことなので、この意見を受けて、講義の動画などで復習できるようにしたり、教科書のどこを参照すればよいかなど、より丁寧に説明したりと、理解しやすい工夫をしている。
・はじめに、学生の生活に身近な話題を、時には映像を交えながら説明し、その上で抽象度の高い内容へと移るということをなるべく心掛けている。段階を踏むことで、授業内容に対する「とっつきにくさ」が多少和らぎ、それが授業への集中に結びついているようである。
・授業内容に入る前に、自分自身の体験を振り返ってそれらを書き出してもらうようにしている。自分の体験や考えたことをもとに授業を聞くことで、理論と具体的な場面が関連づき、理解が深まるように工夫している。
・授業の導入時に、授業に関連する内容という条件つきで、最近関心を持った新聞記事をクラス全体に発表（個人プレゼンテーション）させ、これから学習する良い雰囲気づくりに努めている。
・授業内容が日常生活にも役立つように例を挙げたり、質問紙などを使って自己分析などをしている。
・理論知と実践知の融合が実感できる学びが重要である。理論で習得した知識との関連を図りながら、学生に学校現場の実際に即した授業づくりを経験させることを重視している。
・授業形態（対面・遠隔）にかかわらず、毎回の授業で学生に授業の振り返り等を提出してもらい、その内容を次回に的確にフィードバックする。
・テーマごとにその授業の概要を示し、何を学んでほしいのかを解説する。
・経営学で歴史の講義をする際に、なぜ歴史を学ぶ必要があるのか、その意義を考えてもらえるようにしている。過去と現代との接点に触れ、身近で具体的な事例を用いる等、現代的な意義を意識した内容を心掛ける。
・学習意欲のない学生に向けて、今、勉強していることが将来どのようなことに役立つのかを説明するようにしている。
・授業内で ICT を活用し、学生の意見等をリアルタイムに取り入れながら相互に関わる授業を復活させた。結果として、理解や力の涵養など学生にとって意義のある授業であると回答があった。

・９０分の授業にメリハリをつけるため、およそ ３０分刻みで異なる作業（レクチャー、参考映像視聴、協働作業、ライティング等）を行なう形にしている。
・ただ聞くだけでなく、手を動かして自分で考えてもらうために、適宜ワークや板書を入れるようし、メリハリのある授業運営を目指している。
・学生からは配布レジュメが不親切で、他授業のように穴抜きのレジュメなどにしてほしいという要望があるが、これについては社会人になるのに各自でメモを取るというトレーニングもしてほしいので、変更する予定はない。
・高校時代に日本史を選択していたのかどうかで、知識量に大きな差があると感じている。この点を踏まえ、あまり日本史の知識が豊富でない受講生にとっても分かりやすいように、基本的な事項についても改めて説明する
・基礎技能を持たない学生、充分持っている学生、その混在状況の中で、そのいずれにも得るものがあるよう、考慮している。
・模擬面接などで、学生にロールプレイを行わせ、実際の就職に関する実演をする。そのことで、将来に向けた意気込みを高めていく。
・できる限り学内実習・臨地実習で活用できる技術を、実践的に利用できることを目指し、コンピュータを使った演習を取り入れながら講義している。
・事例を多く出すこと、現場の実態を伝えること。これらを通して経営の実際に接近するようにしている。
・授業の合間に、人生哲学や生き方の心得、処世術などを織り交ぜて話すと、学生が関心を持って聞いてくれるようになる（このような話を聞く機会は案外少ないとのこと）。
・タイムリーな内容をふんだんに入れながら、臨場感ある授業を心掛ける。

３．教材作成

＊易しいと感じている学生がやる気を失わないように、もう少し難易度の高い教材を追加し、難しいと感じている学生が学習を投げ出してしまわないように、より丁寧な解説を行い、質問の時間を設け、さらに学習支援室への誘導を進める。
・到達目標を明確に示し、難しい説明をなるべく平易に具体的に行う。
・身近な事例紹介を増やし、学生の授業内容への関心を高める。
・文系学部の学生とっても最低身につけておいてほしい科学の基礎知識は授業で触れながらも、可能な限り身近な事象を題材として取り上げ数式や化学反応式などを用いた説明は極力さけ、イラストや動画を活用して概念の理解に繋げる。
・講義資料は、なるべく図表、写真など視覚に訴える資料を多くし文章を少なくする。
・動画等を映写するだけでなく、実物を持参し直接手に触れてもらえるように心がけている
・国が運営しているデジタルミュージアムや公的な YouTube 番組へのリンクを提示し、受講生が良質な情報にアクセスできるようにする。

・WEB 教材を活用して、個々のペースで発音、聞き取り練習ができるようにしている。
・新聞記事やニュース映像等を用いて、可能な限り最新の情報を紹介し、興味をひくようにしている。
・学校現場で即活用できるような実践的指導力が身につくように具体的な実践事例を踏まえて授業分析を行う。そのためにも全国大会レベルの最新の情報を積極的に収集し、提示する。
・板書時間を節約したり、画像やイラスト表示により理解を促したりするために、パワーポイントを利用している。
・iPad を活用しテキストを PDF 化したものをプロジェクター提示し、説明を書き込むことによって進行中の内容をわかりやすいように説明することに取り組んでいる。
・毎回、授業の様子（PC のスライド挙動・音声）を録画し、TALES 上で公開していつでも閲覧できるようにするなど、復習をしやすい環境を整えている。
・欠席者がレジュメ等を入手しやすいように、TALES 上に掲載している。
・時代の移り変わりが早く、学生の理解度や興味の方向も一定ではないから、授業で扱うテーマについては毎期検討する。
・一つの学問領域の学習なので、その知識や技能の修得が「簡単」ということはあり得ないが、これからも工夫を重ねていく必要がある。
・美術史学の場合、「分かりやすい説明」の危険性という問題を挙げておかざるをえません。美術は（学ぶ側が能動的に）目で見て感じること、理解することが大切で、言語に依存するかたちでの過度の「分かりやすさ」は、避けるべき事態であるからです。よりよき「分かりやすさ」、「目で見て学ぶ」心地よさのために、とくに視覚的情報の充実を、今後も心がけていく。

４．授業時間等の配分

・９０分の授業にメリハリをつけるため、およそ３０分刻みで異なる作業（レクチャー、参考映像視聴、協働作業、ライティング等）を行なう形にしている。
・９０分の時間を４０分程度の授業　２回の間に１０分の休憩を入れるつもりで授業を組み立てる。休憩もいわゆる休み時間ではなく、前半部分の確認で事例問題を出題し、学生同士で相談しながら考え、少し息抜きできる時間としている。
・はじめに、学生の生活に身近な話題を、時には映像を交えながら説明し、その上で抽象度の高い内容へと移るということをなるべく心掛けている。段階を踏むことで、授業内容に対する「とっつきにくさ」が多少和らぎ、それが授業への集中に結びついているようである。
・ただ聞くだけでなく、手を動かして自分で考えてもらうために、適宜ワークや板書を入れるようし、メリハリのある授業運営を目指している。
・学生に質問する。
・基本的には、講義形式としているが、なるべく DVD や画像なども活用して、ビジュアル的にわかりやすく説明をするよう心掛けている。

5．課題の出し方

＊毎授業の終わりに、学校で実際に起こったケースを示し「あなたはどう考えるか（行動するか）？」を問うケースメソッドを導入している。これは、大学で得られる知識（形式知）と幼小中高等学校での教員経験から得られる知識（暗黙知）の乖離を埋めることを意図するようにしている。

・学生の予習・復習、準備、課題作成も含めて、授業１回あたりの平均時間をより増やすため、実験中に実験レポートの作成、特に考察の考え方を毎回指導する。

・対面に移行してからも、TALES を使って、資料の掲示やレポート作成をしてもらっている。授業中の質問に加えて、TALES からも質問を受け付けるようにしている。

・毎回の授業課題で書かせている「授業内容の要約」から、授業の理解度を確認し、進捗スピードなど注意する。

・授業外の学習時間を客観的に測れるように、TALES 上で予習動画の閲覧状況を確認し、練習問題の解答状況もチェックしている。

・子どもと本をつなぐ技術として、主に絵本の読みがたり、ブックトーク、POP 作成を体験してもらっているが、最寄りの公共図書館で児童書を借りる等の準備が必要なので、早めに授業スケジュールを認知してもらえるように注意する。

・難しい課題内容を頑張って勉強して報告してほしい反面、難しすぎて質問が出にくかったり、意見交換がそもそもできないなどといった事態は回避しなければならないので、参加者全員が課題内容を理解しつつ、意見交換（議論）が成立するような、身近な事例等を扱う。

・課題の種類を２つに分け、授業の日に、必ずアクセスして取り組んでもらう問題と数日かけて取り組む問題を用意する。問題の種類も、ファイルで提出するものだけではなく、様々な小テスト形式のものを用意し、学生が飽きないように工夫する。

・ほぼ毎回「予習課題／予習内容と同一の確認課題／予習内容を応用した実習課題」という ２種３ 通りの課題を課し、翌週に各自の取り組み状況の講評を行う。予習課題は少しでも取り組んであれば完成度を問わず一律評価とすることを伝えている。このことが授業時間外での自習を促す仕掛けとして機能している。

・授業内容の予習ができるよう、翌週分の資料を１週早く事前配付している。

・演習問題をプリントで配っているが、授業内ですべての答えを解説しないようにしている。答えは調べれば分かるものであるため、「調べる」習慣を付けてもらうため。

・いつでも、どこでも宿題ができるよう、英語学習のアプリに掲載されている練習問題を課題にしている。

・外国語の授業で、スマホ対応補助教材を作成し、気軽に聞き取り・発音練習できるようにしたことで、ほぼ毎時間、授業の冒頭で行う聞き取り・発音テストに備えて、課外学習を行う学生が増えた。

6．フィードバック

・なかなか講義の中ではそれぞれの理解を確認することが出来ないために、毎回の講義課題へのコメントを通して把握できるように努めている。
・毎回、授業内容に対する受講生のコメントを読み、フィードバックの文書を作成しているが、それをできるだけ早く行い、TALES 上に提示する。課題内容を忘れないうちに、他の受講生の意見等を知ることで、様々な角度から、当該テーマをより深く検討できるようにする。
・毎週「フィードバック」を使って，感想を書いてもらっており，それに公開の形でコメントを授業中に話している。「感想」欄は，コミュニケーションの場としても有効と思う。
・前回の課題に対するフィードバックを必ず実施する。特に優れた回答はクラス内で取り上げ、受講生の参加意欲向上に努める。
・完成度の高い課題提出物に関しては、学生本人の了解を取った上で、他の受講生の参考になるようにサンプルとして学籍番号や氏名を削除した上で TALES にアップロードする。
・発音練習の成果を毎回吹き込んで提出させ、フィードバックしている。
・フィードバックを受けるタイミングにおいて、受講者の間で違いが生じないよう、いつ、どのようなタイミングで、どのような方法でフィードバックを行うかについて、あらかじめ周知する。

7．復習と小テスト

【復習】
・毎回、授業の様子（PC のスライド挙動・音声）を録画し、TALES 上で公開していつでも閲覧できるようにするなど、復習をしやすい環境を整えている。
・講義中に復習も含めて解答解説をしている。
・データダイエットのために音声付き電子ブックを使用し、何回でも講義を聞けるようにした。

【小テスト】
・毎回、授業終了時にその日の内容に関する問題演習（一問一答形式）を行い、内容の確認と理解度のチェックを行っている。
・毎回、復習テストを実施し、次回の講義時に採点済の答案を返却し、間違った箇所を訂正後に再提出を求めることで学生の理解を助けるようにしている。
・毎回の小テストで授業内容の理解を確認したり、授業で扱った問題の演習をしたりしているが、択一式問題は４～５題にとどめ、学生の課題の負担が大きくなりすぎないように注意している。
・小テスト（確認テスト）をクイズ感覚でできるようにし、復習がしやすいようにする。
・TALES を導入し、授業内で出来なかった国家試験関連問題を小テストとして用意し、各自が解答後に解説を見て復習ができるようにした。

・小テストを TALES 上で行い、復習を促すとともに、何度も受験可能な設定にしている。
・小テストは期限内なら無制限受験を可能とし、最高点を採用する。
・復習がしやすいように、X ドライブを活用して資料をデータとしても入手できるようにしている。

8．学生参加を促す

・コロナで三年ぶりの実講義である。学生に関心を持ってもらおうと様々な取り組みをしているが、これまでになく反応が鈍い。レポート等を見ると理解はしているが、講師とコミュニケーションが取りづらい。これまで以上に、座学ではなく実践的かつ五感で感じれる講義をめざした。
・グループ・アプローチの手法を取り入れた授業を展開している。学生も積極的に参加してくれ、変化を感じる。
・クラスの雰囲気に慣れてもらえるよう、前半にグループ学習等を多く取り入れお互いの関係性を作り、後半に個別作業を集中させ、個別相談の時間を多くとれるようにした。
・机を円の形にし、話しやすいようにしている。
・授業対面に戻ったことで、授業内で Google Forms やロイロノートなど、ICT を活用し、学生の意見等をリアルタイムに取り入れながら相互に関わる授業を復活させた結果、理解や力の涵養など学生にとって意義のある授業であると回答があった。
・Zoom の投票機能や Google Forms によるアンケートを用いることで、講義で扱う内容に直接参加できる体験型の講義を行う。
・学生間の相互の学び合いのために、課題で出た意見の紹介・フィードバック、グループワーク、発表の際の学生同士のコメント交換などの機会を授業内で確保している。
・TALES では掲示板も設定できるので、視聴覚教材の感想や質問をそこに投稿するよう設定し、教員と学生との二者間ではなく多者間で知識を共有する。
・履修人数が多いためになかなか全体での意見交流ができないので、できるだけ毎回講義の最初に前回の講義課題で出された主な意見について紹介し、その良さを説明している。
・小規模の演習科目では、発表者に事前にテーマを公表させ、発表者以外の学生に予習を促し、必ず全員でそのテーマについてディスカッションするようにしている。これによって学生の授業参加意欲が高まっているように思う。
・担当箇所を割り当て、その箇所だけでも責任を持って説明できるように準備してくるシステムを作っている。
・語学の授業中に、極力受講生に発音させるようにしているのだが、その際、マイクを通して教室全体によく聞こえるように発音させることで、真剣に練習するようになった。
・自ら調べ、まとめ、伝える能力をつけるために、初回オリエンテーション時に担当学生を決め、学生に教師役として授業を実施してもらっている。
・演習では可能な限り 2～3 名の少人数で一つのプロジェクトに取り組ませ、内容にコミット

しない学生が出ないように気をつけている。
・チームで作業をさせて、学生一人ひとりに責任を持たせるようにしている。
・ディスカッションが円滑に進むために、発表者には必ず「ディスカッションの種」を用意してもらう。ゼミ生同士が積極的に意見交換を行い、最後には参加者がそれぞれコメントシート（１．おもしろかったこと、２．もっと知りたいこと、３．その他、応援のメッセージ）を作成する。後日、教員がチェックし、発表者に返却する。
・学生のプレゼンテーションが行われている際にスマートフォンで Google フォームを利用し、学生同士でプレゼンテーションの評価ができるシステムを使用している。
・学生が考える時間が持てるよう、話し方に「間」を取るように心がけている。
・演習において、発表者に対する意見・コメントを言ってもらう際、安心して意見が言えるような雰囲気を作るため、発言する順番は授業の最初にくじ引きで決めている。
・回答までに○分などタイマーで時間を管理しながら、各自もしくはグループで問いに対する回答を考える時間を設けた後に、回答者を選出している。回答者の選出は、名前カードを用いて抽選にしているので、一定の緊張感があるようだ。
・ゼミにおいて、全員が発言できるような課題を設定している。
・時間内に可能な限り全ての学生が口頭発表、チャット、発言、質問など何らかの形で参加できるように工夫する。
・「分からない」は認めず、正誤ではなく、自分自身の頭で考えた答え（考え、感情、経験等）を必ず答えるように、答えられるような質問を用いて、できるだけ毎時間全員に問いかけ、自分の頭で考え発信する機会を設けている。
・できるだけ多くの学生を指名し、授業に参加させる。
・講義が中心であるが、質問を多くしてなるべく学生に考えさせてから答えを教えるようにしている。
・一方的な講義にならないように、学生に質問し、挙手して発言した学生にポイントを与えている。

９．学修レベルのアップ

・課題やクイズ等のフィードバックを丁寧に行い、学生の理解を促す。
・毎週の課題と並行して個人で設定しているテーマによる探究レポートの作成について、個別に情報提供等のサポートを行う。
・管理栄養士を目指す学生たちによりモチベーションが上がるように他の講義、実験、実習との関連などを意識させて基礎的な内容が将来につながっていることを認識してもらう。
・原論科目のため、歴史や哲学、思想に加え、現代の事象や問題等、広く深い内容を扱う授業のため、いかに「自分事」として捉え、思考するかを目標に授業を展開している。そのため、難しいと感じていると回答しながらも、意欲的に授業に取り組み、授業の到達目標に向けて力が

ついてきている、意義がある等と回答されているので、今後も、学生の状況を丁寧に把握しながら授業を継続していきたい。

・演習中にわからない部分を友人に尋ねて解決するケースはお互いの学びあいのために良いことではあるが、間違いを教えあうこともある。困っている様子の学生に対して、演習時の巡回中により一層声がけを行い、学生からの説明を傾聴しつつ解決へのアドバイスに努めていきたい。

・オンライン英語学習ツール「Duolingo」「Words & Monsters」「M-Reader」を使用した授業外学習を積極的に勉強している学生がいる一方で、これらのツールでほとんど勉強していない学生もいることに気づいた。今後はこれらのツールの良さをもっと分かりやすく説明をし、時間のあるときに利用するように促していきたい。

・ゼミ生にはゼミでこれを学んだと自信を持って言える課題を設定し、多少困難な課題にも取り組んでもらいたい。

・「授業の難易度」について、「やや易しい」と答えた学生が少数ではあるが居たため、少し難易度の調整を図ることが必要であると感じた。授業は「やや難しい」と回答されることが好ましいと考えている。

・学生からは配布レジュメが不親切で、他授業のように穴抜きのレジュメなどにしてほしいという要望があるが、これについては社会人になるのに各自でメモを取るというトレーニングもしてほしいので、変更する予定はない。

１０．学生対応と質疑応答と学習支援

【学生対応】

・最近の学生は人見知りする傾向が見られるので、教員に対して質問しやすい環境づくりが大切ではないかと感じる。たとえば、それはフレンドリーな接し方であったり、堅苦しい説明ではなく砕けた説明を通じて、概念的なものをより具体的で身近な感覚から理解できるようにすることであったり、そうした工夫を今後、さらに重ねていくことが必要だと思う。そのためには、ある程度、こちらから学生に寄せたアプローチも採るべきであり、そうすることでコミュニケーションがとりやすくなり、質問したり感想を述べたりする機会を増やすことにつながるのではないかと考える。

・個人的に思うこととして、もう少し学生との接点を増やすように心がけることが大切だろうと感じている。最近の学生は人見知りする傾向があり、教員と接することにやや億劫になっている印象を受ける。しかし、話してみると色々、考えていることがあって、なかなかそれが面白かったりするので、こちらから学生に歩み寄る努力も必要だと思う。

・難しい話を極限まで簡単に、ほめて伸ばす、ときに厳しく。

【質疑応答】

・授業以外の時間に教員のサポートが受けられないと回答した学生が約 16%おり、メールやオフィスアワーで教員とコンタクトが取れることを学生に再度リマインドすることが必要だとわかった。

・毎回の感想文（TALES）において質問の項目を設けている。授業内で困ったことや、練習の方法、種目のルール等、不明点があれば次回授業の冒頭で説明を行なっている。直接質問ができない学生もいると考えられることから、今後も TALES を活用し、参加しやすい雰囲気づくりを心がけていく。

・質問には個人の進捗に合わせて説明している。

【学習支援】

＊100 人規模の授業では、授業内容の難易度や進度の適切性にばらつきがあるので、授業時間内での理解が少し難しい学生に対しては，TALES の補助教材を用いたリカバリー方法を具体的に伝える等の工夫を行う。

・感想や質問を書いてもらう機会を増やし、そこでのコメントから学生が行き詰っている個所を見つけるようにして、それに対応する。

１１．その他

＊マイクの状態の確認をしっかりとする。

＊指定席か自由席にするかの判断を状況に応じて適切に行う。

・今年の授業ではコメントシートに要望などを書く学生も少ないため、少数意見を拾えていない側面がある。要望などを普段から匿名で集めるなどの方法も検討したい。

Ⅱ. 学生ヒアリング

Ⅱ．学生ヒアリングについて

1. 学生ヒアリングの実施

授業改善アンケートを中心に、授業、大学で学ぶ環境に関する学生の意見を聴く機会として、授業改善アンケート（6/12～6/24）以降に学生ヒアリングを実施した。各学部または学科の FD 推進委員が、各学部・学科 10 名程度の学生を対象にヒアリングし、下記の項目についての意見を聴取した。

【ヒアリング項目】

・授業改善アンケートについて
（実施時期、回数、設問項目数、質問内容、その他、実施方法について）

・シラバスについて
（記載されている内容について）

・その他　授業や学習環境について
（日頃受講している授業、あるいは学習する環境に対しての意見、要望等）

2. 学生ヒアリングの結果への対応

学生ヒアリングの集計結果については、FD 推進委員会で報告し、情報共有を行った。その上で各学部長に報告し、学部または学科で必要と思われる事項については、学部長の判断で対応いただくよう依頼した。また、単学部・単学科に留まらない事項については、全学教育開発センターＦＤ推進検討チームで対応案を作成し、FD 推進委員会で検討した。

3. 学生ヒアリング結果

（１）授業アンケートについて

ア．実施時期について（→現状のままが妥当）

（文学部）	・適切である。
	・若干早めが良いという少数意見もあった。
（経済経営学部）	・問題なし。
（法学部）	・現状でよいとの意見が多数であった。
（心理学部）	・適切である。
（現代生活学部）	・適切であるとの意見が多数であった。
	・若干早めが良い、遅めが良いという少数意見もあった。
（教育学部）	・適切である。

イ．回数について（→現状のままが妥当）

（文学部）　・適切である。
　　・年２回（前期後期）実施が良いという意見もあった。
（経済経営学部）　・問題なし。
（法学部）　・現状でよい。
　　・年２回（前期後期）実施が良いという意見もあった。
（心理学部）　・適切である。
　　・年２回（前期後期）実施が良いという少数意見があった。
（現代生活学部）　・数回増えても、あまり負担感はない。
（教育学部）　・適切である。
　　・年２回（前期後期）実施が良いという意見もあった。

ウ．設問項目数について（→現状のままが妥当）

（文学部）　・適切である。
　　・多い。
（経済経営学部）　・多い。
（法学部）　・現状で良い。
（心理学部）　・適切である。
（現代生活学部）　・適切である。
（教育学部）　・適切である。

エ．その他、実施方法等について

（文学部）　・年１回の実施になるなら、実施しない時期に匿名で要望などを受け付ける目安箱のような制度を設けてほしい。
　　・年１回の実施になるなら、実施しない時期に必修のゼミなどで、履修している授業で困っていることや改善してほしいことがないかどうかを調査し、まとめて記入できるような匿名のアンケートを実施してほしい。
（経済経営学部）　・意見なし。
（法学部）　・意見なし。
（心理学部）　・Google form などの方が回答しやすいのではないかと思う。
　　・外部講師の授業の場合など授業改善アンケートの対象外になる科目があるが、自由回答のみでもいいので、全ての授業で意見を伝えられる場があれば良い。
（現代生活学部）　・科目によって実施しないことを通知してほしい。
　　・授業内でやるのがよい。
（教育学部）　・授業内で実施してほしい。

（２）シラバスについて（記載内容についての意見）

（文学部）
・TALES をどのように利用するかを記載してほしい。
・授業計画などで専門用語など難解な言葉の使用は避けてほしい。
・成績評価の方法をシラバスの記載から変更するケースがときどきあって困る。
・連絡先のメールアドレスなどを載せてほしい。

（経済経営学部）
・７名中６名は適切にシラバス通りに授業をすすめていたが、１名のみシラバスに書いている内容と授業内容が異なっていた。

（法学部）
・欠席回数や遅刻についての記載があるものとないものがある。
・出席に関する評価基準を明確にするとなお良い。
・以前のシラバスのほうが一覧で表示され、大学がどのような講義を開講しているのかが確認できて良かった。

（心理学部）
・分かりやすかった。ただ、後期からキャンパススクエアが変わったことによって、見にくくなって退行したように思えた。

（現代生活学部）
・わかりにくい。

（教育学部）
・シラバス探しが難しい。

（３）その他、授業や学習環境について

（文学部）
・マイクを使わないので聞き取りにくい、黒板が見にくいなど、授業で改善してほしいことがあってもなかなか直接は伝えられないので、随時匿名で意見を受け付けるようなシステムがあったらと思う。
・非常勤講師には TALES メッセージでも大学のメールアドレスでも連絡がつかない場合がある。

（経済経営学部）
・科学の授業で、先生が前で実験したものがどのような結果になるのか見えることができるので理解しやすい。
・資格取得のための科目が設定されているので、資格が取れやすかった。
・言語科目では、先生と１：１で相互作業ができるので集中できる。
・課題に対する丁寧な解説をしてくれるので理解が深まる。
・授業中、配布された資料は可能なら TALES に載せてほしい。
・出席のキーワードを授業が終わる直前に話されると焦る。
・休校はキャンパススクエアに載せるだけではなく、メール

	などで知らせてほしい。
（法学部）	・授業中の私語が大変。先生方は私語に対してもっと厳しくしてほしい。 ・30 回の授業で毎回課題がある場合、TALES のコース内で課題を探しているとき困ることがある。
（心理学部）	・集中講義の科目がキャンパススクエアのカレンダーに記載されていないので講義確認がしづらい。 ・Wi-Fi が遅い。
（現代生活学部）	・教科書に載ってないことをプリントなどで説明してくれる授業は面白いと思う。 ・空き教室の利用時間を 20 時までに延ばしてほしい。あと、出席登録が 1 分でログアウトしてしまうのは不便。 ・栄養プラスをいつでも使えるようにしてほしい。 ・学科ニュースから見られる他のアドバイザークラスのフィールドワークにも興味関心がある。 ・自習室利用可能の部屋に、ゼミで利用の予定があるのならば扉前にその旨を告知してほしい。 ・机が汚いことがある。 ・マイクが不調の部屋がある。 ・TALES をもっと活用してほしい。 ・キャンパススクエアがとにかく使いづらい。 ・ホワイトボードのマーカーのインク切れが多い。
（教育学部）	・TALES、キャンパススクエアが使いにくい、使いにくくなった。

4. 学生ヒアリング結果の検討

令和 6 年 2 月 15 日開催の第 11 回 FD 推進委員会において、前記の学生ヒアリング結果が報告された。その際、各事項について対応部署が明確にされ、各学部・学科等で直接対応するのがふさわしい事項については、2 月 27 日付で、FD 推進委員長から各学部長に資料を送付し、対応を依頼した。

■全学教育開発センターFD 推進検討チームでの検討結果等

（1）授業改善アンケートについて

ア．実施時期について

おおむね「適切である」との意見が多かった。現行のアンケートは学期内の授業改善を目的としており、授業の中盤に実施し、その結果をふまえた後半の授業改善を期待するものである。時期が遅いとの意見も一部にあったが、授業開講後すぐに実施した場合、授業が必ずしも軌道にの

っておらず、受講生も当該授業の全体像を把握していない場合もあると考えられ、授業の中盤に実施するのが適切であると考える。また、TALES を活用したことにより、結果の集計が迅速に行われるようになり、早期の授業改善に役立つようになった。

イ．回数について

「適切である」との意見が多かった一方で、回数を１回から２回の実施にするべきとの意見も散見された。2022 年度の授業改善アンケート集計結果の「今後の課題」でもふれたが、学生の回答への負荷を軽減する目的で、実施を年１回とすることにしている。現状では、年１回の実施が妥当だと思われる。

ウ．設問項目数について

「適切である」との意見が多く、次年度も現行の設問項目数とする。

エ．その他実施方法についての意見

・「年１回の実施になるなら、実施しない時期に匿名で要望などを受け付ける目安箱のような制度を設けてほしい。」や「年 1 回の実施になるなら、実施しない時期に必修のゼミなどで、履修している授業で困っていることや改善してほしいことがないかどうかを調査し、まとめて記入できるような匿名のアンケートを実施してほしい。」などの要望については、学部長や FD 推進委員などが連携して検討する。
・「外部講師の授業の場合など授業改善アンケートの対象外になる科目があるが、自由回答のみでもいいので、全ての授業で意見を伝えられる場があれば良い。」という意見については、委員会で再検討する。
・「科目によって実施しないことを通知してほしい。」や「授業内でやるのがよい。」という意見については、委員会や文書で依頼されている事案であり、FD 推進委員より学部内で周知を徹底させていく。

（２）シラバスについて（記載方法や項目等への意見）

・「TALES をどのように利用するかを記載してほしい。」や「授業計画などで専門用語など難解な言葉の使用は避けてほしい。」、「連絡先のメールアドレスなどを載せてほしい。」、「欠席回数や遅刻についての記載があるものとないものがある。」などについては、文書で依頼されている事案であり、FD 推進委員より学部内で周知徹底頂く。
・「成績評価の方法をシラバスの記載から変更するケースがときどきあって困る。」については、FD 推進委員より学部内で周知徹底頂く。
・「以前のシラバスのほうが一覧で表示され、大学がどのような講義を開講しているのかが確認できて良かった。」や「分かりやすかった。ただ、後期からキャンパススクエアが変わったことによって、見にくくなって退行したように思えた。」、「シラバス探しが難しい。」などについては、教学支援課で改善が可能かどうかなど検討する。

（３）その他　授業や学習環境について

・「マイクを使わないので聞き取りにくい、黒板が見にくいなど、授業で改善してほしいことがあっ

てもなかなか直接は伝えられないので、随時匿名で意見を受け付けるようなシステムがあったらと思う。」や「非常勤講師には TALES メッセージでも大学のメールアドレスでも連絡がつかない場合がある。」、「授業中、配布された資料は可能なら TALES に載せてほしい。」、「出席のキーワードを授業がおわる直前に話されると焦る。」、「授業中の私語が大変。先生方は私語に対してもっと厳しくしてほしい。」、「栄養プラスをいつでも使えるようにしてほしい。」などの意見については、学部長と FD 推進委員が連携して検討する。

・「休校はキャンパススクエアに載せるだけではなく、メールなどで知らせてほしい。」や「集中講義の科目がキャンパススクエアのカレンダーに記載されていないので講義確認がしづらい。」の意見に対しては、教学支援課で改善の可能性を検討する。

・「30 回の授業で毎回課題がある場合、TALES のコース内で課題を探しているとき困ることがある。」については、学部長と FD 推進委員および情報教育研究センターで連携して検討する。

・「Wi-Fi が遅い。」という意見については、情報教育研究センターと総務課が連携して検討する。

・「机が汚いことがある。」や「マイクが不調の部屋がある。」、「ホワイトボードのマーカーのインク切れが多い。」などについては、総務課で検討する。

以上

Ⅲ. FDフォーラム

Ⅲ．ＦＤフォーラムについて

本学では、大学の教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図るため、教育職員、事務職員などに必要な知識および技能を習得させ、その能力および資質を向上させることを目的としたSD 研修を積極的に行っている。また、ＦＤ（Faculty Development）活動の一環として、年２回ＦＤフォーラムを実施し、教員の教育方法の改善を通じて質の高い授業の実践に取り組んでいる。

2023 年度、全学教育開発センターでは計 2 回のオンラインでのＦＤフォーラムを開催した。また、外部のＦＤフォーラムについても積極的な参加を呼びかけた。詳細は、以下のとおりである。

１．第１回（令和５年９月２０日）

日　時	令和５年９月２０日（水）１０：３０～１２：００
演　題	生成 AI をめぐる規範の動向－正しい理解と適正な活用のために－
講　師	中川 裕志 先生（理化学研究所、東京大学名誉教授）
形　式	ウェビナーによるオンライン講演形式
対象者	本学教職員
参加者	理事 1 名、教員 92 名、事務職員 27 名

令和 5 年度の第 1 回 FD フォーラムを 9 月 20 日、オンライン形式で開催し、「生成 AI をめぐる規範の動向―正しい理解と適正な活用のために―」と題して、理化学研究所および東京大学名誉教授の中川裕志先生にご講演いただいた。

生成 AI については現在、これからの社会生活に多大な影響を与える可能性が指摘され、特に教育現場での活用が期待されている。すでに生成 AI を授業に取り入れている大学も現れており、今後導入事例は増えていくものと予想される。本フォーラムでは、そのような社会情勢を踏まえて、生成 AI をどのように大学の授業で活用すべきかを探った。

中川先生は、まず ChatGPT をはじめとする生成 AI の成り立ちについて触れ、AI を使用するにあたって必要となる個人情報保護やプライバシーに関する法整備について説明された。その後、ChatGPT や Midjourney（画像生成 AI）で実際に使用したプロンプト（指示文）を何パターンか紹介し、プロンプトの精度によって AI からの回答が大きく異なってくることを示された。それらの生成例を比較しながら、AI の性能自体は著しく向上しているものの、回答の正確性や適切さなどを評価するためには、使用者自身の基礎知識や倫理観を磨く必要があると持論を展開された。その上で、生成 AI を授業で利用するのは必然的な流れであるとし、学生の AI 使用を全面的に禁止するのではなく、例えば書いたレポートの文章校正や内容の検証に活用するなど、AI の特性を生かした利用法を示すべきであるとの考えを述べられた。

講演の後には質疑応答があり、授業における効果的な AI 活用について活発な意見交換が行われた。

２．第２回（令和６年２月１４日）

日　時：	令和６年２月１４日（水）１０：３０～１２：００
演　題：	「帝塚山大学における生成 AI とのつき合い方と授業実践の模索」
講　師：	鈴木 紀子（全学教育開発センター・データサイエンス教育推進委員会委員） J.V.バウワー（全学教育開発センター） 飛世 昭裕（法学部長）
形　式：	ウェビナーによるオンライン講演形式
対象者：	本学教職員
参加者：	教員 72 名、事務職員 22 名

令和 5 年度の第 1 回 FD フォーラム（演題「生成 AI をめぐる規範の動向―正しい理解と適正な活用のために―」）における講演内容（チャット GPT を含む生成 AI の概要、利用する際に求められる規範等）を踏まえ、2 回目となるＦＤフォーラムを、２月１４日、「帝塚山大学における生成 AI とのつき合い方と授業実践の模索」と題して、全学教育開発センターの鈴木紀子教授、J.V.バウワー准教授と法学部の飛世昭裕学部長を講師に迎え、開催した。講演の後には質疑応答の時間が設けられ、授業運営での生成 AI の取り入れ方や活用の可能性について、熱心な質疑応答がなされた。

３．外部団体主催のＦＤフォーラム

公益財団法人大学コンソーシアム京都が主催する第 29 回ＦＤフォーラム（2024 年 2 月 23 日（金・祝）、24 日（土）/対面またはオンライン開催）への積極的な参加を呼びかけ、以下の 6 名が参加した。

● 後藤博子	文学部日本文化学科教授
● 日置慎治	経済経営学部経済経営学科教授
● 鈴木卓治	全学教育開発センター教授
● 小谷早雅江	全学教育開発センター准教授
● 小西浩嗣	全学教育開発センター准教授
● 中島剛	事務職員（教学支援課）

Ⅳ. 公開授業

Ⅳ．公開授業について

1. 公開授業の実施

各学部および全学教育開発センターにて授業を公開する教員を選出し、以下のとおり 11 月・12 月に公開授業を実施した。専任教員の参観申込率は 99%、参観者の参観シート提出率は 88.3% であった。

授業科目名	担当者	授業日	開講ｷｬﾝﾊﾟｽ
特別講義（スポーツ指導論）	伊藤　麻由美	11 月 6 日（月）2 限	東生駒
金融システム論	郭　チャリ	11 月 9 日（木）5 限	東生駒
心理的アセスメント	式部　陽子	11 月 13 日（月）2 限	学園前
基礎栄養学Ⅰ【2】	中　崇	11 月 16 日（木）2 限	学園前
古文書基礎実習	花田　卓司	11 月 24 日（金）3 限	東生駒
経済心理学	川村　哲也	11 月 28 日（火）3 限	東生駒
特殊講義（知的財産法特論Ｂ）	高　榮洙	11 月 30 日（木）2 限	東生駒
保育相談演習（1）	石田　慎二	12 月 4 日（月）2 限	学園前
教育心理学	清水　益治	12 月 8 日（金）2 限	学園前
裁判法入門	笹邉　将甫	12 月 12 日（火）2 限	東生駒
日本語概説 A（日本語概説 B）	依田　恵美	12 月 15 日（金）4 限	東生駒
建築デザイン実習	北澤　嘉浩	12 月 18 日（月）3-4 限	学園前
英語 C (中級) - 6	三上　由香	12 月 21 日（木）4 限	東生駒
社会・集団・家族心理学	中地　展生	12 月 22 日（金）1 限	学園前

2. 公開授業検討会

参観者は、参観した授業の「授業運営において学んだこと・参考になったこと」、「授業運営について質問したいこと」を参観シートに記載して提出した。これを基に、公開授業後に開

催された各学部教授会および全学教育開発センター教員会議において、以下のとおり報告ならびに意見交換が行われた。その結果を受けて、FD 推進委員会においても検討会が実施された。

文学部

1．検討会を行った教授会等について

対象教授会	開催日	出席者数／全教員数（任期制を含む）
第 13 回　教授会	1 月 24 日（水）	13 名／13 名

2．検討会で出された意見など

▼授業公開者の意見

・くずし字を解読することを苦手に思う学生が多いので、自分自身が読めるようになるためにどういう勉強をしてきたかを振り返って、そのプロセスを分解して、授業として組み立てている。

・日本語学の入門の科目なので、練習問題や課題、小テストなどを実施して、理解度を確認しながら進めている。スタンドマイクから離れてしまうことがあるので、マイクを持って話すようにしようと思う。

▼授業参観者の意見

・本学所蔵の古文書を実際に見せて、学生の関心を高めている。

・構成や時間配分のバランスがよく、90 分があっという間に感じられ、学生の集中も続いていた。

・パワーポイントで古文書の構造を色分けして示したり、ヒントを出しながら学生が読んでいく進度に合わせて解答を提示したり、学生がステップを踏んで解読に取り組めるような工夫がなされていた。

・古文書の様式を理解した上で解読に取り組み、さらに古文書の成り立ちや受け継がれてきた意義などについてじっくりと学びを進めていく授業で、高度な内容を学生にわかりやすく伝えていた。

・資料も話し方もポイントを明確におさえていてわかりやすい。

・ごちゃごちゃした詳細を省いても伝わるように、シンプルに整理して伝えていた。

・大教室でマイクを使われないときがあって、後ろの方では少し聞き取りにくいことがあった。

・前回の課題についてのフィードバックが丁寧で学生の意欲につながっている。

・大事なポイントについてはプリントの空欄に記入させるようにしたり、授業内で適切な難易度の課題を考えさせたり、学生の集中や理解を進める工夫がきめ細かくなされていた。

・パワーポイントを使用し、関連の映像のリンクを用いて学生の関心を引きつけながら進めていた。

経済経営学部

１．検討会を行った教授会等について

対象教授会	開催日	出席者数／全教員数（任期制を含む）
第 12 回　教授会	12 月 20 日（水）	16 名／18 名

２．検討会で出された意見など

▼授業公開先生の意見

・毎回の授業は、基本的な内容を説明し、履修生の理解度を確認するために小テストを実施する。

・毎回、小テストを実施。フィードバックをしている。

・履修者は３０程度のクラス規模である。

・履修者は１００名程度

・社会的思考、人の行動に関する経済実験として、授業内で投票をさせることで学生の興味を引き、学生の自発性を促進させる

・毎回、可能な限り、実験を講義に入れる。アクティブラーニング形式。

・履修生を参加率も高く、実験、アンケートなどの標準的なところよりずれるところがあれば、その理由を探す。

▼授業参観先生の意見

・５限目にも出席率が高かった。出席しないといけないように Tales などを使い、フィードバックをしている。

・小テストに対するフォローが手厚く、資料も理解しやすく、工夫なさるところが参考になった。

・毎回の振り返りを通して履修生の理解の度合いをチェックすることは重要である。

・授業に緊張感があるので、受ける学生に息抜きも必要ではないのか。

・講義中心の科目なのに履修生がしっかり受講できるような仕組みが素晴らしい。

・資料の情報が多すぎる。

・授業では「経済心理学」のトピックスがリアルに感じられる工夫が参考になった。

・積極的な学生の参加、学生自身が考えるような充実した授業になっている。

・学生のやる気を引き出す。

法学部

１．検討会を行った教授会等について

対象教授会	開催日	出席者数／全教員数（任期制を含む）
第 12 回　教授会	1 月 17 日（水）	12 名／13 名

２．検討会で出された意見など

▼授業公開者の意見

・予習動画を配信し、予習課題とテスト、同内容の復習テストを課して、予習と復習を徹底している。既習内容も出題して知識の定着も図っている。

・テキストの予習、復習チェックテスト、フィードバック、繰り返し受験できるドリルを通じて、自主的な学習を促し、知識の定着を図っている。事例問題を解かせ、ルーブリックで採点しフィードバックすることによって、解答方法の型を学ばせている。

▼授業参観者の意見

・tales 上の〇×問題の学習効果が高くないため解説も行っているという説明であるが、効果的な出題方式をさらに模索する必要がある。

・他の授業と共通して取り上げる内容や知識があり、授業間の連携をさらに進めることが有益と感じた。

・受講の秩序がよく、厳しい私語対策の指導が功を奏しているようである。

・授業のもっとも大事な情報をあえてレジュメでは空欄にして、板書で書かせる狙いが参考になった。

▼検討会の要点

　今回の検討会では、tales の各種活用方法とその効果に関するコメントおよび質問が多く集まった。具体的な点数配分や授業方法、学習ツールの活用が大変参考となったという意見が複数あったほか、「点」の知識を如何に「線」につなげ、学生のリーガルマインドを鍛えるかについて、事例問題の利用を含めさらなる改善策をめぐる議論が活発に行われた。

心理学部

1．検討会を行った教授会について

対象教授会	開催日	出席者数／全教員数（任期制を含む）
第 13 回　教授会	1 月 24 日（水）	10 名／10 名

2．検討会で出された意見など

公開者の意見（工夫等）

・授業中に、学生の意見をリアルタイムに聴取したり、質疑応答を実施している（TALES や Google フォームを活用）。

・カウンセリングなどで使用する心理尺度の冊子を実際に回答することで、将来のカウンセリング業務に携わるイメージがしやすくなり、さらにクライアントさんへの配慮を心がけることが期待できる。

・集中力が継続できるように、授業途中で 5 分程度休憩を設けている。

・共担科目では、他の共担の先生が常に授業にいるため、程よい緊張感が保たれ、常に他の共担の先生の授業の進め方などを参考にすることができる。

・予習は、次回で扱うキーワードなどを事前に提示して、調べてもらうようにしている。

・テキストをうまく活用し、予習を促している。

参観者の意見

・レジュメの内容が充実しており、さらに時間配分も適切に行われている。

・レジュメに穴埋めなどが用意しており、常に学生の注意を持続させる工夫がされている。

・前回の授業の復習が授業前半にきちんと行われている。

・大人数クラスにおいても、体験型の授業を実施し、その結果などは Google フォームで公開し、フィードバックもきちんとされている。

・講義科目においても、グループワークが取り入れられ、さらに細かい時間配分があり、メリハリのある授業が展開されている。

・TALES や Google フォームを上手く活用し、学生の興味・関心を引いている。

・心理学領域のみならず、様々な領域のテーマと絡めて、授業内容が構成されており、多角的な視点を培うことができるものであった。

現代生活学部

1．検討会を行った教授会等について

対象教授会	開催日	出席者数／全教員数（任期制を含む）
第 13 回　教授会	1 月 17 日（水）	18 名／18 名

2．検討会で出された意見など

学部内検討会では、先ず授業公開者の意見を聴取し、その後、授業参加者も含めて討論した。下記のような内容が話し合われた。

▼授業公開者の意見

・穴埋め形式の配布資料で授業内に重要な用語を再確認できるようにしている。

・適宜、質問を投げかけ答えてもらうことにより授業参加を促し、居眠りを防止する努力をしている。

・知識定着を確認するため、15 回のうち中間テストを実施し、本試験では中間試験の内容を盛り込んで繰り返しの知識定着を促進している。

・今回参観の実習（建築デザイン実習）では、個々の知識や技能を基に、実習を通じてステップアップできるように工夫して、細かく指導している。

・実習は、最初にテーマを与えて実習の中で完成していくものであり、複数の教員による個別の指導体制を取っている。

▼授業参観者の意見

・完成度の高い資料を準備できており、参考になった。

・知識定着の科目は、参加型の授業運営が難しい。その中で学生の興味を引くことや、居眠り防止の工夫を凝らす必要がある。

・90 分の授業でメリハリを付けて実施するために、実例や気分転換の余談を入れることもある。学生によっては、授業に関係ないことを否定される。他方、教科書に書かれていない内容を取り扱う科目は興味深いとの学生意見もある。授業のレベルをどのあたりに照準を合わせるか、悩ましいのが現実である。

・実習では個々の指導が細かくできているので、頑張れば力が付くと思う。

・実習は個々のオリジナリティーなところを指導していく必要があり、教員にとっても相当な負担になる。

教育学部

1．検討会を行った教授会等について

対象教授会	開催日	出席者数／全教員数（任期制を含む）
第 9 回教育学部ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ会議	1 月 17 日（水）	13 名／13 名

2．検討会で出された意見など

参加した授業に対するコメントを述べ合った。他学部の授業を見て、刺激を受けた者も多かった。

▼A 教員の授業（学部内）

・虐待の対応-学生多数だがグループでの話し合いがスムーズで上手で感動した。学生が質問をする形式が興味深かった。

・構造化された授業で学生がのってきてどんどんのめりこんでいた。見習いたい。

・事前に事例を読んでくる。構造化されて学生がリズムをわかっている。フィードバックもスムーズ。アンケートのチェック項目すべて網羅している。授業の中で押さえておくべきことが 90 分の中にはまっていた。見習いたい。

・見習いたい点 2 点、1 授業の規律 2 グループ活動の質の高さに導く一連の流れ。

・授業のリズムと学生が集中を保つための工夫が勉強になった

・学生が見通しをもって取り組むことができる安心感につながっている。丁寧なフィードバック、TALES の活用も上手で見習いたい。

・授業準備も丁寧にされている。その積み重ねもあり学生が最後まで集中していた。アクティブラーニング等、思考力を伸ばすことに力を入れている。教材・授業準備の大切さを改め確認した。

▼B 教員の授業（学部内）／他学部の教員の授業

・学びの根底にあるもの教材開発や授業つくりに意味があることを実感できる授業。時間配分も学生の活動と開設のバランスが良かった。参考にしたい

・TALES をこまめに振り返り、学生に一連の流れを理解させている。学びの根底のもの、話が難しくなりがちのもの、学生が興味を引く事例をあげ具体的に伝えていた。参考にしたい。

・心理学部心理的アセスメント-性格検査・心理検査法・性格テストを実施していておもしろかった。教材づくりについて詳しく行っており参考になった。

・心理学部 C 先生-従来型の古典的な講義スタイル、心理検査の丁寧な解説であった。教育学部教員の授業は、緻密で対話を取り入れた授業をされていると実感した。

・文学部の古文書基礎演習の授業-本物を見せることが大切だと思った。

全学教育開発センター

1．検討会を行った教授会について

対象教授会	開催日	出席者数／全教員数（任期制を含む）
第９回　教員会議	1 月 17 日（水）	13 名／14 名

2．検討会で出された意見など

全学教育開発センターから提供した 2 つの講義ならびにその他の講義について、意見交換を行った。

＜11 月対象講義＞特別講義（スポーツ指導論）、担当：伊藤麻由美、11 月 6 日 2 限、6113 教室

（参観者）・遅刻者が多かったが、丁寧に対応していた。・資料を丁寧に作っていた。豊富な内容にもかかわらず、キーワードを穴埋めさせるなど、授業に参加しやすい資料を丁寧に作っていた。・授業を聞いていないと後半ついていけないような展開によって、学生の参加をうまく促していた。・一方的に説明するだけでなく、中間で前半のまとめを書かせたり、授業の最後に TALES に課題の答えを入力させるなど、学生を授業に参加させる工夫が見られた。

（担当者）・遅刻者に注意してもなおらない。・授業に活気を持たせるためにグループディスカッションを取り入れたいが、クラス規模が大きい場合、それが難しい。→これに対して、他の教員から、学生同士のグループディスカッションというよりは、教員との間で意見交換ができるように設定するのがいい等、いくつかアドバイスがあった。

＜12 月対象講義＞英語 C（中級）、担当：三上由香、12 月 21 日 4 限、1307 教室

（参観者）・一つの文法事項に関して、複数種類の work やグループ学習を組み入れており、単調にならないように工夫している点がよかった。

（担当者）・公開授業に向けて自分の振り返りができた。・全体的に、受講生は活動がよくできていた。・同じことを初級クラスでするのは難しい。

＜その他の講義について＞

（参考になった点）・TALES を活用して、時間中に随時質問を出して全員を授業に参加させていた。・まず資料を読ませた上で、隣の人と話し合わせていた。・TALES 上に設定した小テストで前回の振り返りを行っていた。・教える内容を事前に学部で共有しており、他の授業で何を学んでいるか把握できていた。

＜その他＞

（受講生を授業に参加させるには）

・複数学部の学生が受講する一般教養科目では、学生間の関係性が薄いことから、受講生が多い場合、グループワークは取り入れにくい。そのため、あらかじめ設問を設定して、

教員が問いかける。・グループではなく、隣の学生と意見交換させる。・アナログとデジタルのゲームを組み合わせる。・最初の 3 回の授業で受講生の名前を覚え、一つのクラスだという雰囲気を作り上げる。・レポート等の課題やテストのフィードバックを丁寧に行うことによって、受講生との関係を作り上げるのが大切。

Ⅴ. FD推進委員会

Ｖ．FD 推進委員会

1．ＦＤ推進委員会

[２０２３年度]

ＦＤ推進委員会	委員長	鈴木　卓治	（全学教育開発センター長）
	委　員	後藤　博子	（文学部）
		姜　　聖淑	（経済経営学部）
		黄　　ジンテイ	（法学部）
		永石　高敏	（心理学部）
		藤原　永年	（現代生活学部）
		清水　益治	（教育学部）
		大西　智之	（全学教育開発センター）
		福田　雅実	（大学事務局次長）
		島本　英一郎	（教学支援課長・東生駒キャンパス）
		中島　　剛	（教学支援課長・学園前キャンパス）
事務局スタッフ		桝井　謙一	（教学支援課）
		山﨑　アヤコ	（教学支援課）

2. 活動報告

4 月 13 日　　第 1 回ＦＤ推進委員会
5 月 11 日　　第 2 回ＦＤ推進委員会
6 月 12 日～6 月 24 日　授業改善アンケート実施
6 月 15 日　　第 3 回ＦＤ推進委員会
7 月 13 日　　第 4 回ＦＤ推進委員会
8 月 18 日　　第 5 回ＦＤ推進委員会
9 月 14 日　　第 6 回ＦＤ推進委員会
9 月 20 日　　第 1 回ＦＤフォーラム
　　演　題：生成AIをめぐる規範の動向
　　－正しい理解と適正な活用のために－
　　講　師：中川 裕志 先生（理化学研究所、東京大学名誉教授）
10 月 12 日　　第 7 回ＦＤ推進委員会
11 月 9 日　　第 8 回ＦＤ推進委員会
11 月 6 日～12 月 22 日　公開授業週間
11 月　　学生ヒアリング実施（各学部・学科）
12 月 14 日　　第 9 回ＦＤ推進委員会
12 月 20 日　　各学部教授会および全学教育開発センター教員会議において
　　「シラバス作成のためのＦＤ」実施
1 月 11 日　　第 10 回ＦＤ推進委員会
2 月 14 日　　第 2 回ＦＤフォーラム
　　演　題:「帝塚山大学における生成AIとのつき合い方と授業実践の模索」
　　講　師：鈴木 紀子（全学教育開発センター
　　・データサイエンス教育推進委員会委員）
　　J.V.バウワー（全学教育開発センター）
　　飛世 昭裕（法学部長）
2 月 15 日　　第 11 回ＦＤ推進委員会
3 月 9 日　　第12回ＦＤ推進委員会

以上

3. 帝塚山大学ＦＤ推進委員会規程

制定 令和3年2月26日

（趣旨）

第１条 この規程は，大学設置基準第 25 条の３（大学は，当該大学の授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。）及び大学院設置基準第 14 条の３（大学院は，当該大学院の授業及び研究指導の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。）に基づき設置する帝塚山大学ＦＤ推進委員会（以下「委員会」という。)に関して必要な事項を定める。

（目的）

第２条 委員会は，本学における教育の資質向上を図るために組織的に取り組む活動（以下「ＦＤ」という。）を推進するとともに円滑な実施を図ることを目的とする。

（業務）

第３条 委員会は，前条に掲げる目的を達成するために，次の各号に掲げる業務を行う。

ＦＤの調査研究に関すること

ＦＤの企画，立案及び実施に関すること

ＦＤに関する講演会及び研修会等の企画・立案・実施に関すること

学生による授業改善アンケートの企画・実施・分析に関すること

各学部及び大学院研究科等が行うＦＤの支援に関すること

その他前条の目的達成のために必要な業務

（構成）

第４条 委員会は，次に掲げる委員をもって構成する。

全学教育開発センター長（以下「センター長」という。）

帝塚山大学全学教育開発センター規程第４条第１項第２号及び第３号に定める職員のうちからセンター長が指名した者

学部教授会から選出された各学科１名の教員

事務局長（次長）

教学支援課長

その他センター長が必要と認めた教職員

（任期）

第５条 前条第１項第１号，第２号，第４号及び第５号の委員の任期は，その職にある期間とし，異動が生じた場合には，後任者が引き継ぐものとする。

２ 前条第１項第３号及び第６号の委員の任期は，２年とし，異動が生じた場合の後任者の任期は，前任者の残任期間とする。

（委員長）

第６条 委員会に委員長を置き，センター長がその任にあたる。

（運営）

第７条 委員長は，委員会を代表するとともに，委員会を招集しその議長となる。

２ 委員長は，必要に応じて，委員以外の教職員に委員会への出席を求め， その報告又は意見を聴くことができる。

３ その他委員会の運営に関し必要な事項は，委員会においてこれを定める。

（幹事）

第８条 委員会に幹事を置き，教学支援課長をもってこれに充てる。

（他委員会等の連絡調整）

第９条 委員長は，全学教育開発センター運営委員会等，関係の各種委員会等との連絡を密にし，委員会の任務遂行の実をあげるよう努めなければならない。（改廃）

第 10 条 この規程の改廃は，委員会及び大学協議会の議を経て，学長がこれを行う。

附 則

この規程は，令和３年４月１日から施行する。

Ⅵ. 全学教育開発センター
FD推進検討チーム

Ⅵ．全学教育開発センターFD 推進検討チーム

１．全学教育開発センターFD 推進検討チーム

［2023 年度］

メンバー　リーダー　谷　美奈（全学教育開発センター教授）
岩井　洋（全学教育開発センター教授）
川添　一郎（全学教育開発センター准教授）

＜活動内容＞

■FD フォーラムに関する検討

今年度も従来通り年２回開催の方向で検討を進めた。

第１回は、生成 AI をテーマとすることにした。2022 年の終わりから、ChatGPT を中心とする生成 AI が世間で注目をあつめるようになった。高等教育の世界でも、学生のレポートや答案に生成 AI を使ったと考えられるものが増加し、生成 AI の利用の可否から、教育における積極的な活用にいたるまで、さまざまな議論がおこった。そこで、生成 AI に関する基礎的知識を学ぶとともに、その授業における効果的な活用方法等について、専門家を招いて、ウェビナーによるオンライン講演会を開催することにした。

第２回は、本学における生成ＡＩの活用をテーマとすることにした。第１回のＦＤフォーラムでは、生成ＡＩの概要と、それを利用する際に求められる規範等についての講演会を実施した。これを受けて、教員各自が試行錯誤をはじめており、その実践例をもとに、生成ＡＩに関する正しい理解と適正な活用についてのＦＤフォーラムを開催することにした。

当チームで、開催時期やテーマ、講師の選定等を行った上で、ＦＤ推進委員会に提案した。具体的な内容については、本報告集の「ＦＤフォーラム」の項を参照のこと。

■授業改善アンケートに関する検討

◆アンケートの実施方法および項目の検討

本年度も昨年度と同様、TALES 上から入力する方式を採用し、教員から学生に入力を促すように依頼することにした。また、これまで各年度前期・後期の２回実施してきたが、学生

の負荷を軽減し、回収率を向上させるとともに、良質なデータを収集するために、今年度は前期のみ全科目を対象に実施することにした。なお、次年度は後期のみの実施とし、以降、前期・後期の順で、交互に年１回実施することにした。以上の検討結果をＦＤ推進委員会に提案した。

◆アンケート結果の検証・検討

　アンケート結果については当チームで検討・検証を行い、ＦＤ報告集に掲載することにした。詳細については、本報告集の「授業改善アンケート」→「４．全学教育開発センターにおける検証・検討について」を参照のこと。

■ＦＤ報告集の内容・構成に関する検討

前年度と同様の構成とした。

■その他の検討

2023 年度全学教育開発センターＦＤ推進検討チームの活動の総括を行なった。

2. 帝塚山大学全学教育開発センター規程

制定 平成24年４月１日

（趣旨）

第１条 この規程は，帝塚山大学学則第63条第２項の規定に基づき，帝塚山大学全学教育開発センター（以下「センター」という。）に関して必要な事項を定める。

（目的）

第２条 センターは，本学における全学的な教育施策の企画及び開発，教育活動の継続的な整備・改善の推進及び支援，並びにFD推進の企画及び大学教育の充実と発展に寄与することを目的とする。

（業務）

第３条 センターは，前条の目的を達成するため，次の各号に掲げる業務を行う。

⑴ 全学的な教育内容・方法の整備・改善に関わる企画，推進及び支援に関すること

⑵ 全学に共通する教育システムの企画及び開発に関すること

⑶ 全学的なFDの企画及び推進に関すること

⑷ 全学的な学習支援の企画及び推進に関すること

⑸ その他全学的な教育に関する必要な事項

（組織）

第４条 センターに，次の職員を置く。

⑴ センター長

⑵ センターに配属された本学の専任教員（任期制教員を含む）

⑶ その他センター長が必要と認める教職員

２ センター長の選出，任期等に関する規程は別に定める。

３ センターに必要あるときは副センター長を置くことができる。副センター長はセンター長が指名する。

（職務）

第５条 センター長は，センターの業務を掌理する。

２ 副センター長は，センター長の職務を補佐する。

（委員会・教員会議）

第６条 センターに，第３条に定める業務の円滑な実施に関する重要な事項を審議するため，全学教育開発センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）及び全学教育開発センター教員会議（以下「教員会議」という。）を置く。

第７条 運営委員会及び教員会議に関する事項は別に定める。

（事務）

第８条 センターに関する事務は，教学支援課において行う。

（改廃）

第９条 この規程の改廃は，運営委員会及び大学協議会の議を経て，学長がこれを行う。

附 則

１ この規程は，平成24年４月１日から施行する。

２ この規程の制定に伴い，「帝塚山大学全学共通教育センター規程」，「帝塚山大学ＦＤ推進室規程」及び「帝塚山大学学習支援室規程」（平成17年7月29日制定）は，平成24年３月31日をもって廃止する。

附 則

この規程は，平成25年６月28日から施行する。

附 則

この規程は，平成27年４月１日から施行する。

附 則

この規程は，令和３年４月１日から施行する。